

第7回全国ムスリムミーティング
「イスラーム学校を語る 一親と子の視点から」

報告書

野中葉研究会ムスリム共生プロジェクト
2025年3月

目次

1. 「第7回全国ムスリムミーティング 報告書」刊行にあたって	2
2. ミーティングの概要	3
3. 登壇者一覧	5
4. 登壇者の報告および議論の抄録	6
5. 参加者による感想（事後アンケートより一部抜粋）	58

1. 「第7回全国ムスリムミーティング 報告書」刊行にあたって

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（SFC）野中葉研究室「ムスリム共生プロジェクト」が主催する全国ムスリムミーティングは、前回2020年12月の開催以来、約4年ぶりに第7回を開催することが出来ました。この全国ムスリムミーティングは、日本に暮らすムスリムが直面する諸問題をテーマに、関係するムスリムに集っていただき、広く意見を収集して、ムスリムも含むより良い日本社会のための足がかりを築こうとするもので、2015年にSFC研究所のイスラーム研究・ラボの主催で第1回を開催して以来、不定期で開催してきました。

今回は、「日本のイスラーム学校—親と子の視点から」というテーマを設定し、お子さんを持つムスリムの皆さんに集まっていただきました。現在、日本各地でイスラーム学校が開設されていますが、これを所与のものとするのではなく、こうした開設が進む背景に何があるのか、イスラーム学校で学ぶメリットとデメリットはどのようなものか、ムスリムの親たちは子供の教育について何を考慮すべきか、日本社会全体で何を議論していくべきかなど、立ち止まって考えてみようというのが今回のミーティングの趣旨です。ミーティングでは、各登壇者から大変重要な指摘が多数なされました。お忙しい中SFCに集まっていただき、忌憚なきご意見を聞かせてくださった登壇者の皆さまには、この場を借りて、改めてお礼申し上げます。

今回のミーティングは、久しぶりにSFCでの開催となりました。私が主宰するようになってからは初めてです。運営は、弊研究室「ムスリム共生プロジェクト」の学部生メンバーたちが務めました。SFCでの開催ながらオンラインでの視聴も認めるというハイブリッドの形態で、運営の面では至らぬ点多かったかもしれませんが、学部生ながら主体的に準備を進め、ミーティングを成功に導いたメンバーに敬意を表したいと思います。

アクセスの悪いSFCまで、多くの方たちがミーティングを聞きに来てくださったことにも心から感謝を申し上げます。東京神奈川にお住まいの方たちのみならず、遠方からもたくさんの方たちが参加してくださいました。また、オンラインで視聴してくださった方の中には、海外在住の方もいらっしゃいました。予想以上に多くの方たちに関心を持っていただき、主催者一同、驚きまたとても嬉しく感じました。

報告書の作成にも、研究会メンバーの学生たちが多く関わっています。当日の録音データの文字起こしから始まり、デザイン、レイアウト、原稿チェックなど複数のメンバーが精力的にたずさわってくれました。この報告書で、ミーティング当日の議論が少しでも多くの方たちの目にとまれば幸いです。

2025年3月

慶應義塾大学総合政策学部准教授

野中葉

2. ミーティングの概要

第7回全国ムスリムミーティング

「イスラーム学校を語る 一親と子の視点から」

日時：2024年10月13日（日）14:00~16:30

会場：慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス 7館12

対面とオンラインのハイブリッド開催

参加者数：71名（対面参加者：25名、オンライン参加者：56名）

プログラム：

<第1部>

- 14:00 開会の挨拶（主催者：慶應義塾大学准教授 野中葉）
- 14:10 イスラーム学校の現状説明
（慶應義塾大学政策・メディア研究科修士課程1年クレシ明留）
- 14:20 登壇者の紹介
- 14:30 登壇者による意見交換
【テーマ】イスラーム学校と日本の学校の違いなど
- 15:40 休憩

<第2部>

- 15:50 質疑応答
- 16:20 議論のまとめ・閉会の挨拶（慶應義塾大学准教授 野中葉）

「全国ムスリムミーティング」企画運営者

(所属は2025年1月現在)

- 野中 葉 : 慶應義塾大学総合政策学部准教授
クレシ サラ : 慶應義塾大学政策・メディア研究科後期博士課程
宗教法人名古屋イスラミックセンター渉外担当理事
長谷川 護 : 慶應義塾大学政策・メディア研究科・修士課程
クレシ 明留 : 慶應義塾大学政策・メディア研究科・修士課程
中川 佳子 : 慶應義塾大学環境情報学部4年
丸山 琳央 : 慶應義塾大学総合政策学部1年
野中葉研究会ムスリム共生プロジェクト所属学生

報告書作成者

(所属は2025年1月現在)

- 野中 葉 : 慶應義塾大学総合政策学部・准教授
クレシ サラ : 慶應義塾大学政策・メディア研究科後期博士課程
宗教法人名古屋イスラミックセンター渉外担当理事
長谷川 護 : 慶應義塾大学政策・メディア研究科修士課程
金城 侑樹 : 慶應義塾大学総合政策学部3年
小林 奈菜 : 慶應義塾大学総合政策学部2年
緒方 諒 : 慶應義塾大学総合政策学部2年
大野 弘幹 : 慶應義塾大学総合政策学部2年
丸山 琳央 : 慶應義塾大学総合政策学部1年

3. 登壇者一覧

名前	居住地	出身国	子の状況	備考
林 純子	東京都	日本	未就学児	
柚村 詩乃	岐阜県	日本	未就学児 小学生 中学生	
最日伝 シャフナ	大阪府	日本	中学生 高校生 大学生 社会人	
リーム アハマド	東京都	エジプト	小学生	
戸田 圭祐	神奈川県	日本	小学生	
グフロン ヤジッド	東京都	日本	未就学児	ムスリムとして 日本で学校に通 った経験あり
アンマール ジャミール	千葉県	パキスタン	未就学児	

4. 登壇者の報告および議論の抄録

司会・進行役：

クレシ・サラ好美

慶應義塾大学政策・メディア研究科後期博士課程

宗教法人名古屋イスラミックセンター渉外担当理事

※ 各登壇者の発言箇所は、敬称を省略した呼び名を表記しています。

第 1 部 (14:00~15:40)

開会挨拶 / イスラーム学校の概要説明 / 登壇者の意見交換

サラ：

時間になりましたので、第7回全国ムスリムミーティングを始めたいと思います。最初に、この会議の主催である慶應義塾大学 SFC 野中葉研究会ムスリム共生プロジェクトの代表である野中葉先生からご挨拶をいただきます。それではお願いします。

野中：

皆さんこんにちは。慶應義塾大学総合政策学部の野中葉と申します。本日は第7回全国ムスリムミーティング「日本のイスラーム学校を語る 一親と子の視点から」にお集まりいただき、どうもありがとうございます。

主催者を代表し、私から最初にご挨拶申し上げます。今日は登壇者の皆さん7名お迎えしました。会場には登壇者の方たち以外にも、対面で参加してミーティングを聞いてくださる方たちが集まっています。またオンラインでは、今、35名ぐらいの方たちが既に参加してくださっているようです。

今回のミーティングの参加には、事前登録という形を取らせていただきました。昨日までに80名以上の方から参加の申請があり、テーマの関心の高さに、主催者一同、改めて気づかされているところです。

お忙しい中、また3連休の中の日曜日でも外は大変良い天気ですが、ご参加くださり心から感謝を申し上げます。会に先立ちまして、全国ムスリムミーティングの趣旨について、また今回のテーマ設定に関して、皆さまにお話しできればと考えています。

今回で第7回を迎えたこの全国ムスリムミーティングは、2015年から慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス内に設置されたSFC研究所イスラーム研究・ラボの主催で、また現在は私が主催する学部のゼミ野中葉研究会ムスリム共生プロジェクトがこれを引き継ぐ形で開催してきています。

日本におけるイスラームに対する理解向上を目指すとともに、日本社会でムスリム同士、また非ムスリムとムスリムがいかに良い関係を築いていくか、そのためにはどのような課題があり、その解決のためにはどうしていけばいいのかといったことに関して、全国から様々な経験をお持ちのムスリムの方に集まっていただき議論する、そういった趣旨でこれまで6回のミーティングを実施してきました。

これまでに議論したテーマとしては、第1回はキックオフ的な会を開催し、第2回が「ハラールとムスリムへのおもてなし」について、第3回が「ムスリム2世への教育」特に中学、高校時代をいかに過ごすかについて、第4回が「現代日本社会におけるダアワ（イスラームを伝えること）」について、それぞれに議論を行いました。

そして、2018年に実施した第5回からは、私がSFCで教え始めたこともあり、主催を引き継いで実施することになり、2018年第5回には「神をどのように伝えるかー母と子による報告」というタイトルで実施しました。さらにコロナ禍の2020年には、第6回「広がるヤングムスリムの輪ーコミュニティの可能性」というテーマで、オンラインで開催しています。

このミーティングでの議論は広く皆さまと共有したいと考えており、第5回と第6回については開催報告書を作成しています。会場にいらしている皆さまには、受付のテーブルに見本誌を置いてありますので、休憩の時間などにお手に取っていただければ幸いです。また、もしご関心ある方にはPDF版の報告書をお渡しすることも可能ですので、受付で申し出ていただければと思います。

さて、今回の第7回のテーマは「日本のイスラーム学校を語るー親と子の視点から」といたしました。近年、日本で生まれ育つムスリムたちは増加の一途をたどっています。早稲田大学名誉教授の店田先生の最新のご研究によれば、2024年初めの時点での日本に暮らすムスリムの数は35万人と推計されています¹。この数は急激に増加しています。例えば、同じく店田先生の以前のご研究と比較すると、2010年当時の在日ムスリムの数は約11万人、2020年末時点では約23万人と推計されていたので、この14年間で24万人、また過去3年では約12万人増加していることになります。

こうした在日ムスリムの増加に伴って、日本で生まれ育つムスリムたちの数も着実に増加していると考えられます。ここには外国籍のムスリムの子どもたちも多いですが、同時に、日本国籍を持つ子どももかなりの数含まれていることが推測で

¹店田廣文（2024）『日本のムスリム人口2024年』多民族多世代社会研究所。

きます。外国籍で一時的に日本に滞在しているケースもあれば、日本生まれで、長期にわたり日本に暮らす外国籍ムスリムも、またそもそも日本がふるさとであるという日本人ムスリムもいます。こうした背景から、近年、日本各地にいくつものイスラーム学校が作られるようになりました。

今日のミーティングでは、このイスラーム学校を取り上げて、ムスリムの親と子の視点から議論することとしました。この日本のイスラーム学校については、いくつかの先駆的な研究が既に発表されています。また、各地のイスラーム学校の校長先生をはじめとする学校関係者の皆さんが集まるセミナーなどもこれまで開催されてきており、その全体像や、各学校のそれぞれに多様な教育方針などについても情報が共有され始めているように思います。

一方で、ムスリム児童や生徒を育てるムスリムの父母の声というのは、これまであまり聞こえてはきませんでした。イスラーム学校が各地にでき始めているとは言っても、その数は未だ大変限られており、地域的な偏りもあるために、日本に暮らすムスリム児童や生徒が皆、現在イスラーム学校で学んでいるわけでは当然ありません。

また、たとえイスラーム学校に通える地域に暮らしていたとしても、様々な理由からイスラーム学校をあえて選択せず、それぞれの地域に設置された日本の学校、いわゆる一条校に通う人たちが多くいる状況だと言っていると思います。

今日のミーティングでは、現在子育て真最中のムスリムの皆さん7人に集まっていたいただきました。様々な声が聞けるよう、性別や国籍、お住まいの地域やバックグラウンドなど、なるべく多様な皆さんにお声がけをしたつもりです。このうちのおふたりは、ムスリムとして日本で育ち、日本の学校に通った経験をお持ちです。

ここでは、登壇者の皆さんに親の視点から、またおふたりには子ども時代の経験を思い出していただきながら、イスラーム学校が増えていく今、ムスリムの親や子どもたちが抱えている葛藤や疑問、意見を交換し合い、イスラーム学校側が考慮していかなければならないこと、また日本社会全体で考えていかなければならないことなどを確認する、そんな会にできればと考えています。

司会は、ご自身が改宗ムスリマで4人のお子さんの子育てを経験され、現在ここ慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科の博士課程に所属しているクレシ・サラ好美さんが担当します。サラさんには、第1回の全国ムスリムミーティングから中心メンバーとして関わっていただいています。また、登壇者の皆さんとの議論に入る前に、本校大学院政策・メディア研究科修士課程のクレシ明留くんに、日本のイスラーム学校の現状について簡単な発表をしてもらいます。明留くんは現在、修士課程での研究の一環で、全国各地のイスラーム学校にフィールドワークを行っており、今回はその成果の一部を話してくれることになっています。

なお、今日のミーティングは、私がここ湘南藤沢キャンパスにて主催するゼミの活動の一環として実施しているものです。事前準備から会場設営やオンライン配信な

ど、全てゼミの学生たちが担当して取り組んでいます。メンバーには修士の学生も含まれていますが、彼らの多くは学部生です。学生たちなりに精一杯務めてくれてはいますが、慣れないことばかりで色々な不備や、また頼りない運営だと感じられることもあるかもしれません。どうぞ温かく見守っていただき、皆さまで会を盛り上げていただければ大変にありがたいです。

これから2時間以上の長丁場になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

サラ

野中先生、ありがとうございます。今、ご紹介いただきましたクレシと申します。この後には、別のクレシが話をします。紛らわしいので、私はムスリムネームでサラと名乗らせていただきます。よろしくお願いいたします。

これから、イスラーム学校の現状説明をクレシ明留が行います。よろしくお願いいたします。

明留

慶應義塾大学修士課程1年のクレシ明留と申します。3年前からイスラーム学校に関心を持っていて、調査を続けています。今回は、そういった観点からお話しさせていただきます。よろしくお願いいたします。

先ほど野中先生から説明がありましたが、どんどんムスリムの人口が増えています。そのため、学校現場ではムスリムの児童あるいは生徒を見ることが珍しくない状況になっています。その中で、まず外見の違い、それに加えて宗教的な違いによって周囲から浮いてしまい、いじめやからかいの対象になってしまう。そういったことを本日の司会であるクレシ・サラ好美が論考でまとめています²。

本日もう1つご紹介したいのが、マシジド大塚の運営をしている日本イスラーム文化センターが出しているデータです。これは、2013年に第二世代に対して行ったインタビューを基にしており、日本に暮らす第二世代のうち約85%がムスリムとしてのアイデンティティを失っているという現状を報告しています³。このデータを根拠に、イスラーム学校の必要性を訴える校長がいくつかの学校で見受けられました。ただし、85%という数字の母集団がわからないため、妥当な数字かどうかは不明です。

本日は、2021年から2024年に私が訪問したイスラーム学校の情報をもとにお話しいたします。他にも存在する可能性はありますが、自称「イスラーム学校」や、特定

² クレシ好美 (2022) 「日本に暮らすムスリム第二世代 ――学校教育現場における実態の検証――」 『白山人類学』 25, 131-154.

³ 見原礼子(2023)「オルタナティブ教育の場としてのイスラーム学校」伊達聖伸編『日本のイスラーム/フランスのイスラーム』 pp. 239-259. 水声社.

の研究者が「イスラーム学校」と見なしたものもあり、全てをイスラーム学校と呼んでいいかは疑問に思っています。そこで、定義を確認したいと思います。

日本におけるイスラーム学校の研究はまだ少ないですが、本日の議論ではこのように定義します。

「義務教育課程にあたる小学校以上の教育課程を持っている学校、かつ、日本に暮らすムスリムによって設立され、ムスリム児童・生徒が地域の学校の代わりに通う教育機関」

私はこれまでに、12ヶ所のイスラーム学校と呼ばれる学校に行きました。

訪問したイスラミックスクール

学校名	設立年	カリキュラム	学年	生徒数	教員数	年間学費 (入学金)
ブリティッシュ インターナショナルスクール	2007	英国ケンブリッジ式 カリキュラム	幼稚園～ Grade 10	161人	23人	約30万円 (5万円)
東京IQRA インターナショナルスクール	2015	英国ケンブリッジ式 カリキュラム	幼稚園～ Grade 9	75人	13人	56-89万円 (5万円)
友愛インターナショナル イスラミックスクール	2016	英国ケンブリッジ式 カリキュラム	幼稚園～ Grade 12	約140人	不明	140-260万円 (70万円)
インターナショナル イスラミーヤスクール大塚	2017	英国ケンブリッジ式 カリキュラム	幼稚園～ Grade 9	約120人	21人	67-91万円 (21万円)
札幌インターナショナルスクール	2021	米国式各州共通 基礎スタンダード	幼稚園～ Grade 7	31人	14人	24-36万円 (4万円)
福岡イスラミック インターナショナルスクール	2023	米国式各州共通 基礎スタンダード	幼稚園～ Grade 6	29人	11人	24-36万円 (4万円)

(数字は2024年時点のものを記載)

このうち、公的な教育課程に準じず、高校生を集めてただイスラームを教える学校や、アフタースクールとして機能するマドラサもありました。そういったマドラサはおそらく、全国にあるモスクの数だけあると予想されます。さらに、幼稚園しかない学校もありました。本日はそれらの学校を除き、一般的な教育課程に準じる小学校以上の教育課程をもつ6校の学校を、設立された順に紹介します。

神奈川県海老名市にあるブリティッシュインターナショナルスクールは、海老名モスクから離れた場所にあり、モスクからは独立して運営しています。カリキュラムはイギリスのケンブリッジカリキュラムを採用しており、幼稚園から高校まであります。校長先生はパキスタン出身の方ですが、学校名にイスラームが入っていないことからわかるように、イスラーム要素を前面に出しておらず、インターナショナルスクールとして、非ムスリムの生徒も3割ほど在籍しています。非ムスリムの生徒数は、日本のイスラーム学校の中で1番多いです。

次に、東京都葛飾区にある東京IQRAインターナショナルスクールです。こちらは小学校と中学校の校舎が分かれており、私は中等部の校舎を訪問しました。こちらもイギリス式のカリキュラムを導入しています。2014年に幼稚園、2015年には小学校

が創設され、2024年には中学3年のクラスが新たに設置されました。毎年1学年ずつ増やしていくそうです。

次に、東京都渋谷区にある東京ジャーミイの隣に位置する友愛インターナショナルイスラミックスクールです。こちらにもイギリス式のケンブリッジカリキュラムを採用しています。こちらは、幼稚園生から12年生、つまり日本の学校でいう高校3年生までが在籍しています。生徒数も多く、埼玉県に新しい校舎を購入したそうです。他のイスラーム学校と比べて、学費が高いのが特徴です。

次は、東京都豊島区にあるマシド大塚を運営する日本イスラーム文化センターが、2017年に設立したインターナショナルイスラミーヤスクール大塚です。ここもイギリス式のカリキュラムを採用しています。毎年1学年ずつ増やしており、今年、中学3年生のクラスができました。生徒数は120人で、入学希望者のウェイティングリストがとても多いため、近隣にもう1件新しいビルを購入しました。

次は札幌にとびます。札幌インターナショナルスクールは北海道大学を修了した留学生や北海道大学の教員が中心となって、2021年に始まった新しい学校です。こちらはアメリカ式のCCCS（各州共通基礎スタンダード）のカリキュラム⁴を採用しています。

最後に福岡イスラミックインターナショナルスクールです。こちらは、福岡モスク内の九州大学留学生を中心に組織された団体によって運営されています。去年設立されたばかりで、生徒数も少なく、小学校6年生までしかありません。札幌インターナショナルスクールの姉妹校なのでカリキュラムはアメリカ式のものを採用しています。

宗教的な背景のある学校というとキリスト教のミッションスクールがありますが、先ほどお話したのは全てインターナショナルスクール、つまり教授言語は英語であるため、キリスト教系のミッションスクールと類似する学校と捉えることは出来ません。1校だけ、教授言語を可能な限り日本語に切り替えていこうとする学校もありました。一方で、日本社会よりも国際社会で活躍する人材を育てるという方針をとり、日本語に力を入れない学校も1校ありました。

男女が別々で学ぶということはあまりなく、教員は高学歴の外国人ムスリムが多いです。しかし、教員免許を持たずに教えている場合がほとんどで、教員免許を持つ教員が在籍する学校は2校のみでした。その2校も、教員免許を持つ教員は数名でした。カリキュラムは4校がイギリス式で、新たに開設された2校はアメリカ式のCogniaの認定を取得中とのことでした。Cogniaは外国人学校であることを認定する国際的な評価団体で、文部科学省も認めています。

今回のムスリムミーティングに参加登録をする際に皆さんにご回答いただいた事前

⁴ Common Core State Standards の略。

アンケートでは、大学の進学について心配されているというムスリムの方たちの声が多く聞かれました。まず、大学を受験するには高校を卒業することが条件になります。この中には、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる該当者のうち、ケンブリッジの A レベル、すなわち日本の高校 2 年生または 3 年生に該当する課程を修了したものも含まれます。2024 年 3 月には、アメリカの Cognia の認定校も追加されました。大学によって細かい成績の基準は異なりますが、基本的にこれらの学校の高校を卒業した生徒は、大学の受験資格を持つことになります。

最後に、各学校が掲げる理念について共有させていただきます。6 校中 5 校は「日本社会へ溶け込み活躍できる人物を卒業させること」を掲げており、日本社会に溶け込める人材育成を目指しています。しかし、どれだけこれが現実的なのでしょう。

僕自身、小学校 3 年生までインターナショナルスクールに通い、4 年生になって日本の公立校に編入したのですが、とても大きなカルチャーショックを受けました。つまり、驚きを感じるほど環境が異なっていたということです。コミュニケーションの取り方、友達の作り方、男女の距離感など、全て最初から学び直す必要がありました。ぜひこの辺りは登壇者の皆さんにディスカッションをしていただけたらなと思っております。ご清聴ありがとうございました。

サラ

ありがとうございました。今説明がありました通り、この会議では、義務教育課程にあたる小学校以上の教育課程を持っているイスラーム学校を話題にするということで進めてまいります。

初めに、本日の流れをご説明します。前半はただ今より 15 時 40 分ぐらいまで、登壇者による議論の時間とします。そこから 10 分程度休憩を挟み、後半は質疑応答の時間とします。登壇者へのご質問がありましたら、対面でご参加の方は、お配りした質問用紙にご記入いただくか、QR コードからグーグルフォームにアクセスして質問をお送りください。オンライン参加の皆さまは、チャットボックスにリンクを送信しておりますので、そちらからグーグルフォームにアクセスしてご記入ください。何度でも送信できますので、思いついた時点でお送りいただいて構いません。ご質問は休憩時間中に運営側で確認いたしますので、15 時半を受付の終了とさせていただきます。

それでは意見交換に入りたいと思います。まず、お名前とお子様の現状などを含めて、登壇者の皆さまに自己紹介をしていただきます。では、親の立場からのご登壇者で林さんからお願いします。

林

林純子です。もうすぐ 5 歳になる年中さんの子どもがいます。私自身は大学でアメリカに留学した時に改宗しましたので、ムスリムになってからもう 20 数年経ちます。

ここにきて、子どもの進学先をどうしようかなと考えているところなので、今日は色々
と学ばせていただけたらと思います。よろしくお願いします。

サラ

林さん、ありがとうございました。次に柚村さん、お願いします。

柚村

柚村詩乃と申します。私は元々こちらの SFC で、イスラームやアラビア語について
勉強して、それをきっかけにムスリムになりました。今は岐阜県に住んでおり、パート
ですけど保育士をしています。子どもは中学 2 年生、小学 6 年生、小学 2 年生と年
少さんの 4 人です。主人はモスクのイマームをしていて、子どもたちの環境として
は、地域的にムスリムが多いエリアで暮らしています。今日はよろしくお願いします

サラ

柚村さん、ありがとうございました。次にシャフナさん、お願いします。

シャフナ

大阪から来ました最日伝シャフナです。私は、主人とともに大阪でのモスクの設立
活動などを、30 年ぐらい関わってきまして、今は大阪イスラミックセンターという団
体を運営しています。和歌山県橋本市にあるムスリム墓地の運営も大阪イスラミック
センターがやっております。子どもは、最後に生まれた男の子が中学 2 年生です。あ
と女の子が 4 人いて、28 歳、23 歳、20 歳、17 歳です。子どもたちの学校生活ももう
だいぶ終わりには近づいてきているところではないかなと思います。よろしくお願いします。

サラ

シャフナさん、ありがとうございました。次にリームさん、お願いします。

リーム

初めまして、リーム・アフマドと申します。エジプト出身です。東京に来たのは
2018 年で、現在拓殖大学政治経済学部で講師をしています。カイロ大学文学部日
本語学科の専任講師でもあります。子どもは 2 人いて、2 人ともまだ小学生です。2 人
は日本人とエジプト人のダブルですから、インターナショナルの教育を最初から考え
ていました。完全に日本人だけではないので、日本の教育とインターナショナルの教
育の良さを吸収してほしいと考えて、特別なトライアルを試してみました。友愛インタ
ーナショナルイスラミックスクールに通わせながら、区立小学校にも通わせたという

トライアルです。これは、もしかしたらこの登壇者の中で私だけやったことかなと思います。ディスカッションの時にまた色々お話しします。

サラ

リームさん、ありがとうございます。次に戸田さんお願いします。

戸田

皆さんこんにちは。戸田圭祐と申します。アラビア語名はサイードです。SFC 出身で、奥田先生やマンスール先生、野中先生のもとで学んでおりました。ムスリムミーティングは、最初の頃は事務局側にいたのですが、ここ何年かなかなか関われずに申し訳ないなと思っていたところ、今回はこういった形でお呼びいただいて参加することができて、とても嬉しく思っております。ありがとうございます。

私自身は、大学院のフィールドワークでシリアのアレッポに行った時に改宗をしました。2010 年か 11 年ぐらいだったと思います。妻も私とほとんど同じようなバックグラウンドを持つ改宗ムスリムです。今は娘が公立の小学校に通っております。後ほどお話できればと思いますが、イスラーム学校に通わせようという選択肢は特になかったです。よろしくお願いします。

サラ

戸田さん、ありがとうございます。次は、親でもありますが、子の立場でもある第二世代のグフロンさんお願いします。

グフロン

はじめまして、こんにちは。グフロン・ヤジッドと申します。僕は日本生まれ育ち、東京出身なのですが、両親は共にインドネシア出身です。幼稚園から日本の学校に通っていました。大学院を卒業した後に、先ほど紹介にあった友愛インターナショナルスクールで先生をやるまでは、割とイスラームコミュニティには関わりがなかった者として、今日はお話ができるのかなと思います。よろしくお願いします。

サラ

グフロンさん、ありがとうございます。じゃあ次も親であり、また子の立場である第二世代のアンマールさんお願いします。

アンマール

皆さんこんにちは、アッサラームアライクム。アンマールと申します。私はグフロンさんと境遇が似ていて、父も母もパキスタン人です。僕自身はずっと日本で育ち、

幼稚園から高校までは日本で、大学はマレーシアに留学をしました。現在は会社員をやつつ、イスラミックサークルオブジャパンという団体の青年部で、若いムスリムたちのイベントなどを運営しています。2ヶ月前に子どもが生まれたので、自分の経験も交えつつ、今後、子どもをどう育てていくかということも話し合えたらと思います。よろしくお願いします。

サラ

アンマールさん、ありがとうございました。では、早速7人の方々に意見を交換していただきます。できるだけ皆さんに発言の機会が行き渡るように、1回の発言を2分までとさせていただきます。1分半が経過した時点で、ベルが1回鳴ります。その後、30秒ぐらいで一旦ご意見をおまとめいただき、次の方にお譲りいただきたいと思えます。

まず、イスラーム学校、それから日本の学校について、お子様の、あるいはご自身のご経験をご披露いただきたいと思えます。先ほども自己紹介でおっしゃっていたように、この中で唯一、お子様をイスラーム学校に通わせた経験をお持ちのリームさんに、まずはお話をいただきたいと思えますが、よろしいでしょうか。

リーム

はい。1分半では全然足りないですが、できる範囲で。私は、さっき申し上げた通りエジプト出身です。エジプトは中東諸国の中で最初に、日本の教育を信じた国だと思います。エジプトのシーシー大統領は2016年に来日した時に日本の教育を見学し、特に日本における特活、特別活動を非常に気に入りました。エジプトには今、日本の教育様式を導入する大きなプロジェクトがあって、ちょうど今年、中学1年生で始まりました。私自身は、日本の教育の素晴らしさ、良さは昔から意識しています。

あと、私の子ども2人はせっきく日本人とエジプト人のダブルですから、日本社会から離したくないという考えもあって、日本の教育を受けさせたい。同時に、イスラームのアイデンティティやイスラーム的なモラルを形成するには、私と夫だけでは足りないとも思っています。なので、できる範囲でそのどちらもの良さを身につけてほしいと考えました。

最初、長女は区立小学校に通わせていましたが、やっぱり案の定、日本語ばかりの世界になってしまっ。私がいくらアラビア語を家で喋っても、圧倒的に日本人的生活だけになってしまいました。周りの先輩とかを見ても、区立学校に通っていると日本人だけになっているような感じでしたので、できるだけどちらも通わせようという考えに至りました。

サラ

何年生の時にイスラーム学校に移ったのですか。

リーム

長女は、1年生の時は区立小学校でしたが、2年生からどちらにも通わせるようになって、今はまた区立小学校に戻りました。

サラ

なぜ日本の学校に戻ったのでしょうか。

リーム

これ、実は私の研究の一部でもあります。今ある全てのイスラーム系のインターナショナルスクールには足りない部分があるというのは事実です。例えば、日本の小学校の方が校庭とか運動場があり、宿泊を伴う活動もあります。あと、お弁当は持っていない。そちらの方が広い世界を経験できるかなと思います。でも、日本の中学では全く足りない部分もあります。例えば道徳を教えています。日本の道徳とイスラーム的なモラルはやっぱり違いがあります。親孝行とか、他人へのコミュニケーションスキルとか大きく違います。

サラ

では、日本の学校にお子様を通わせた方はいかがでしょう。柚村さんお願いします。

柚村

うちは先ほども言った通り、ムスリムが多いエリアです。なので、小学校と中学校は、例えば一学年の生徒60人の中の2人から8人ぐらいがムスリムという状況で育っています。それからモスクでも、月曜日から金曜日は毎日勉強会があり、土日どちらか1日は、クルアーンの個人レッスンで学んでいます。だから、日本の学校に通いながら、イスラームの勉強もコミュニティでやってもらっているのです。ただ、そうすると、ものすごく忙しいんです。スケジュールがすごくきつきつになってしまうという問題はあと思っています。

サラ

ありがとうございます。シャフナさんと戸田さんもお経験をシェアしていただけますか。シャフナさん、お願いします。

シャフナ

うちは、小学校はみんな、家のすぐ前にある公立の学校に通っていました。でも、やはり日本の学校というのは、あくまでも日本人のための学校であるという部分がすごく多くて。うちの子のようなハーフの子どもたちとかが、いづらい部分はないかという、必ずはあるということを感じてきました。例えば給食や水泳の問題。最近、スイミングウェアでも、肌の露出の少ないタイプが出てきて、三女や四女には、そういう水着を着せて、3年生ぐらいまでプールとかやっていたけど。長女なんかは、小さい時にプールに入れてあげるっていう決断ができなかったんで、今でも恨まれている部分もあるのかもしれないです。「私が泳げないのはプールに入れてもらえなかったからだよ」というような言い方を娘がする時はあります。うまくいかない部分もたくさんあったようには思いますね。ただ、イスラーム学校とか、インターナショナルスクールに入れるっていう環境が無かったので、なんとか公立の学校に行ってもらったっていう感じです。

戸田

うちは、私も妻も日本人なので、子どもも見た目上は普通の日本人と同じで、公立学校に通っている分には、特に本人的には不自由を感じてないと思います。むしろコロナ禍があったので、友達との接し方とか、ムスリムどうこうじゃなくて、そもそも人間関係の作り方みたいなところを今、ゆっくり学んでいっているのかなというのをドキドキしながら見守ったり、サポートしたり、そんな状況で。公立学校なので、当然ですが、イスラームについて、文化だったり教えだったりに触れる機会はほとんどありません。なので、私と妻とで意識的に作っていかなくちゃいけないと思っはいるのですが、自分たちも忙しくなったりすると後回しになってしまいます。だから、自分たちでやるっていうと、問題になるのかなと思っています。

ただ、個人的には、そんなに詰め込む必要はないとも思っています。イスラームについて教えるというのは、神様の存在と、あとはクルアーンを少し、頭の中に残ったり、音として入っていればいいかなくらいに考えています。なので、おそらく、イスラーム学校に通わせるご両親比べると、まずそこがだいぶ違うかなと思います。

子どもの日常に関する希望と言えば、放課後の居場所という、安心できる預け先が欲しいなど。今後、ムスリムに限らず必要になってくると思うので、そういった場所が今後増えていくといいなとは思っています。

サラ

ありがとうございます。では、ご自身が日本の学校に通われていたということで、第二世代のグフロンさん、お願いします。

グフロン

僕自身は幼稚園からずっと日本の学校に通っていましたが、やはりこの見た目や名前前で既に他の友達とは違うというところで色々な葛藤がありました。あとは親子関係の葛藤もありました。言語的な壁で悩みが打ち明けられないとか。なので、違いというのを家庭内で感じて葛藤することもありました。自分だけが家でも外でも違うという葛藤はあったのですが、今、大人になって改めて考えると、それがムスリムとしての葛藤だったのか、それとも思春期の葛藤だったのか。ムスリムじゃなくても親子関係の葛藤はあるので。それをムスリムだから自分はこう悩んでいると思っていたというのは、大人になってから気づいたことの1つでもあります。

大学院の時にアメリカとイギリスに留学をしたのですが、その留学の経験を通じて、ムスリムのアイデンティティにすごく自信を持てたんです。それで、帰国してからは、割とすごく広い視野で生きることができて、ある意味、殻から出ることができました。その時に気づいたのが、日本では出る杭は打たれるという諺がありますが、自分はずっと打たれ続けてきたんだなど。

先ほどシャフナさんが、日本の学校というのは日本人が通う学校、日本人のための学校だとおっしゃっていたのを聞いて、そうだよなと思いました。要は、日本人をどのように定義するかによりますが、日本で生き抜くためのスキルというか、日本で杭として出ないためにどうすればいいのかというのを、どうしても日本の学校では教えられて、それを刷り込まれてしまう。僕は自分の性格的にも常に（杭が）出てしまう人間だったので、割とそういう意味では葛藤があったなと思います。それはムスリムとしてなのか、それとも思春期だったのか、性格的な問題だったのかというのは、今思うところではあります。

ただ、ムスリムとしての葛藤ももちろんあって、それがイスラーム学校に行けばなくなるかもしれないっていう意味では、イスラーム学校に対して希望を持っているというのが自分の考えです。

サラ

グフロンさん、ありがとうございました。では、アンマールさん、お願いします。

アンマール

私は3歳ぐらいまでパキスタンで暮らしていて、3歳になった頃に日本に来ました。最初は第一言語がウルドゥー語だったのですが、小学校低学年ぐらいの時には日本語の方が話せるようになっていました。それを危惧した親が家の中ではウルドゥー語だけっていう環境を作ってくれたおかげで、自分がパキスタン人でムスリムであるというアイデンティティと、学校では日本人として周りに馴染むというのをうまく使いこなせるようになりました。

なぜかという、私は名前がアンマールです。アラビア語でアンマールといい、日本語ではアマルと呼ばれます。だから、アマルとしての自分とアンマールとしての自分という2人の存在が、自分の中にいたんじゃないかなと思います。それをうまく切り替えることによって、サバイブしてきた感じです。

日本の学校に通いつつ、夕方5時から7時ぐらいまでは近くにあるモスクで塾みたいな感じでクルアーンや英語を勉強して、その先生は、たまに数学も教えてくれました。かつ、そこには同世代のムスリムも集まるんです。そういう環境も整っていたというのが、自分が日本の学校に通いつつもムスリムとしてのアイデンティティを保った理由の1つとしてあるんじゃないかなと思っています。

サラ

ありがとうございます。林さん、お子さんはまだ就学年齢ではないですけど、今のお話を聞かれて、地域にあるかどうかは別として、もしイスラーム学校があるとしたらお子さんをどちらに通わせたいと、今の時点では思いますか。議論が進んだらまた変わるとは思います。

林

そうですね。学校に何を求めるか、というところなのかなと思うのですが、今のところ私としては、ムスリムとして生きていきたいという気持ちを子どもが持ってくること、それから、イスラームについて勉強したいと思った時に勉強しやすい環境を整えてあげることってというのが親にできることなのかなと考えています。そうすると、どっちも利があるというか、ムスリムとして生きていく基本を作るという意味では、やっぱりイスラーム学校はすごく魅力的だなと思います。

一方で、自分で与えられるだけじゃなくて、自分で選び取っていくということが日本の中では特に必要になっていくと思いますので、そういうことをする、できるような力をつけるという意味では、つまり、日本で生きていく力は、基本的に必要かなと思いますので、そういう意味では日本の学校もいいのかなと思っています。気持ち的には、今のところ若干日本の学校に寄り気味です。

サラ

だそうです。この後の議論でどちらに傾くか、またあとで聞いてみますね。では、次のスライドに行ってください。登壇者の方々に実は事前アンケートを行っておりまして、そのご回答です。

質問フォーム何度も回答できます

登壇者への事前アンケートより

イスラーム学校のメリット	イスラーム学校のデメリット
<ul style="list-style-type: none">・イスラームの価値観が共有されている環境で過ごすことができる・信仰のある先生方、友達から良い影響を受けることができる・ムスリムとの自然な人間関係の中で愛情を育むことができる・ムスリムの友人ができる・ムスリムとしてのアイデンティティを保つ・学校でイスラームの知識を得られる・モスクとダブルスクールにならないので放課後の時間に余裕がある・いじめにあう確率が低い	<ul style="list-style-type: none">・日本で生きていく上での常識や社会性の習得機会の減少・日本で非ムスリムの人たちの中で生きていく術を身につけられない・ノンムスリム日本社会の空気感がつかみにくい・大学生や社会人になったときに周りの人たちとの異質さが目立つ・日本人でもなく外国人でもない中間的な存在になってしまう・ノンムスリムの友達があまりできない・外国人がやるダアワみたいになる可能性がある・しっかりと運営されている学校がまだまだ少ない・教師の養成や運営の力が中途半端・カリキュラムや学校設備の不足・学力について懸念点あり・イスラーム科目の内容・漢字が苦手になる・セミリンガルの問題・進学先・学費が高い

皆さんがメリットとしてあげたものを左側に書きました。「イスラームの価値観が共有されている環境」で、「信仰のある先生方や友達から良い影響を受け」られて、かつ「学校でイスラームの知識を得られる」「いじめに合う確率が低い」。こういう辺りに大体集約されると思いますが、これだけではちょっと足りないと思うので、書かれた方々にもうちょっと補足していただければと思います。はい、シャフナさん、お願いします。

シャフナ

特に中学、高校の思春期の女の子がものすごく難しくて。それはグフロンさんが言われたように、思春期なのかムスリムとの関係なのかというのは、多分大人にならないとわからないと思うんですけど。本当に、学校に毎日行ってもらうのがこんなに大変なんだろうと思うぐらいに。今小学生のお子さんを持っている方に、脅しのような話ではないですけども、本当に大変なんです。

毎日、朝、学校に送り出すことができれば「ああよかった、今日はよかった」みたいな風に思えるぐらいに大変な中で、ムスリムの学校であれば、もしかすると、見かけの心配や服装の問題がもっと少ないのかもしれませんが。特に今、女子高生などは見かけ至上主義といいますか、たとえ女子だけの学校であっても、可愛くないと友達ができないっていう、とてもこう、悩みが多い年頃になってるんです。その中で、ムス

リムの学校で、ムスリムの女性ばかりがいる環境であれば、そういう悩みはなかったのではないかなという意見はあるとは思いますが。

サラ

他の方もね。はい、アンマールさんお願いします。

アンマール

いじめに合う確率が低いってところで、さっきグフロンさんがおっしゃった通り、出る杭が打たれることは日本社会で本当にあります。僕なんかは全然、ひどいいじめとか差別を受けたわけではないですが、僕の友達のお兄さんお姉さんなんかはいじめがひどくて日本の学校に通えず、パキスタンに帰らざるを得なかったっていうケースもありました。それを考えた時に、やっぱりイスラーム学校だと周りに杭だらけじゃないですか。だから打たれることないなど。そういう面ではやっぱりイスラーム学校はいじめに遭う確率は低いというふうに思います。

サラ

そうですね。リームさんお願いします。

リーム

私の子ども2人は、まだ小さいからかはわからないですけど、いじめというのは受けたことない。むしろ可愛がってもらっているというか。まさにダブルさんで、もちろん日本語はネイティブだし。私たちが住んでいるエリアは、結構外国人が多くて、国際色が豊かなので、いじめまではないと思います。ですが、最近ちょっと心配するようになったのは、コミュニケーションスキルに問題があるのではないかということです。前に、イスラーム系のインターナショナルスクールにいた時は、自分の意見をすごく出して、笑顔が素敵で活気に満ちていたと思うんですが、最近は、私がいちいち聞かないと出てこない。私自身は、カイロの大学と日本の大学で教えたことがあるのですが、完全に違いますよね、日本人の学生の反応とエジプト人の学生の反応。

サラ

日本だと杭が打たれちゃうので。

リーム

エジプト人だけでなく、パキスタンの方もインドネシアの方も、反応はで大きいですよ。逆に、日本人はちょっと控えめ。間違えるのが怖いとか、みんなの前で大き

な声を出して、自分の意見を勇気をもって出さない傾向が強いですね。私が何とか工夫して、学生さんたちを励まさないと思いを伝えてくれないですね。私は、正直、子どもたちは間違えてもいいから話し出してほしい、自分の意見を勇気を持って正直に出してほしい。なので、子どものコミュニケーションスキルは最近すごく気になっています。

サラ

はい、グフロンさんお願いします。

グフロン

愛情を育むってことに関してなんですが、僕自身、友愛での先生の経験だったり、モスクでの仕事の経験だったり、あとはアンマールくんをはじめ、色々な若いムスリムたちとの関係の中で、愛情をすごく得られたんです。イスラームの教えや、愛のあるコミュニティに触れた時に、愛というものに対しての価値観がすごく変わりました。その時、自分がいかに愛に枯渇していたのかということに気づきました。日本の社会にいた時には、全然愛を感じなかったんです。得られることもなかったし、自分が与えることもなかったんだと、愛のあるコミュニティに入った後に気づきました。なので、イスラーム学校に通うことのメリットの1つとして絶対あると思うのは、愛情というのが何なのかを理解している人たちが、愛情や、愛するということをちゃんと教えたり、教えられたりできるっていう環境だというのがあります。

その愛するとか愛されるというのがやっぱり人間力に繋がるし、生きる上で、生き方の1つとして、ちゃんとか、愛というのを理解しなきゃいけないと思うのですが、今、この現代社会、色々な問題ですごく狂っていると思うんです。その狂った社会の中で、大人でも安心した愛のあるコミュニティを見つけるのはすごく難しいのに、子どもにはとっても難しくって。コミュニティがどういう愛のあるコミュニティなのかを考えた時に、イスラーム学校はそういう意味では安心して子どもを預けられるコミュニティの1つだなどは感じます。

それが結局いじめの話にも繋がってくるんですけど、なんでいじめがダメなのかとか、なんで人を殺しちゃいけないの、とか、なんで悪いことしちゃいけないのという、そもそもの問題を説明できる先生がいるかどうかは、すごく大きいと思います。なので、それがいるようなコミュニティというのは、イスラーム学校のメリットかなと思います。

サラ

はい、柚村さんお願いします。

柚村

私もグフロンさんが言っていたように、ムスリムの人たちの中に、すごく温かい雰囲気を感じる事がよくあります。やっぱり、そういう風に懐深い、愛情を注いでくれる人たちって、自分自身の信仰もすごく深い。すごくアッラーのことを大好きで、よく信じていて、多分クルアーンをたくさん読んでたりとか、夜の礼拝もよくしていたり、そういうことはあると思います。そういうことを、自分の子どもにも影響受けてほしいっていうのが、やっぱりすごくあります。

だから、私はムスリムの多いコミュニティで子どもたちを育てているけど、それでもイスラーム学校に通ってる子どもさんたちの話を聞いたら、やっぱりレベルが全然違うと思うんです。イスラーム学校の子どもさんたちは、例えばヒジャーブを被っていてすごいとか、クルアーンを読めてすごいっていうレベルじゃないんです。こんな言い方してあれだけど、すごく頑張っています。夜の礼拝とか、朝早くから起きて礼拝したり、クルアーンをいつも読んでいたり。そういう話を聞いたら、子どもたちにはすごく良い影響になるだろうなって思って、やっぱりすごく憧れます。そういう環境でレベルアップしてほしいという気持ちが正直あります、親として。

グフロン

いいですか？

サラ

はい、グフロンさん

グフロン

僕は友愛で1年半先生をやってたんですけど、友愛ができたばかりの時、入っていた生徒がみんな日本の学校から来た子たちでした。英語を喋れないような子たちで、イスラームも全然触れていない。イスラームに家庭では触れてるけど、そんなに自分のものにしてないような子たちが入ってきた状態で、友愛インターナショナルイスラミックスクールが始まりました。その彼ら彼女たちの成長を目の当たりにして、この愛がない、愛を知らない子たちが、すごく愛情深くなったんです。今はもう大人になって、何人かは大学生になっていますけど、すごくみんな、愛に溢れていて、自尊心もあるし、愛情というものが何かというのがわかっている。

それは同世代の同級生の同い年の日本の子たちに比べたら圧倒的に違います。夜の礼拝がとか、クルアーンがとかは置いて、単純にコミュニティとして、アイラブユーとかお互いに言い合ってますからね、友達同士で。友達に対して愛してるって、ハグができるっていう関係は日本にはそんなないと思うんです。それが日本の奥ゆかしさって言ってしまえばそれで終わりですけど。久しぶりに友達に会っても、

日本の友達だと「久しぶり～」で終わっちゃう中で、ムスリムとかだと「久しぶり」でハグしたり。フィジカルにどこまでやるのが好きかという好みの話になってはきませんが、根本的な愛のある接し方がわかっているかどうかという部分では、その子供たちはすごく愛をちゃんと学んで、自分のものにして、大人になって、多分これから愛を広げていくんだろうなと感じます。そういう意味で、同じ年の子供たちと比べると、だいぶ愛情深い気がします。

サラ

こうなると林さん、イスラーム学校の方がちょっと点数上がってきますよね。

林

そうですね。私の夫はアメリカ人ですが、彼はアメリカでイスラーム学校に通って、育ってきています。夫の様子を見たり聞いたりとかもしながら思うことですが、やはり小さい頃、特に小学校の低学年とかなのかなという気はしていますが、ムスリムの中で生きていけるということが、自分がムスリムであることの自信や自尊心、それでいいんだっていう気持ちを育くむのかなと思っています。それはやはりこう、友達もムスリムだからだったり、自分がムスリムであるということに対して、何も疑問を外から呈されないという安心感というか、それはすごく重要なのかなという風には思っています。

サラ

戸田さん何かありますか。イスラーム学校のメリットについて。

戸田

私自身は普通に公立学校に通いましたが、アラビア語の勉強を始めて、特にシリアやヨルダンの方といっぱい接するようになって、グフロンさんがおっしゃっていたように、愛っていうんですかね、居心地の良さとか、そういうのは、すごく私自身も感じました。より深く付き合ってくれば色々あるんだと思いますが、ある意味こう、サバサバしてるというか、そこまで表裏ないかなと思います。そこは私自身もすごく居心地が良かったし、それまで日本社会でこういうコミュニティってあんまりなかったなと思ったこともあって。「だからアラブ人、単純なんだよ」と言われたりもしますが、そういう単純さを私は好きだったりしますし、いいなと思ったりします。

日本の学校のことについて述べておくと、ディフェンドするわけではありませんが、杭が打たれてる感じはそれほどないというか。私の娘がまだ低学年なので、そのせいかもしれませんが。授業参観とかも行きましたが、まだみんな恥じらいもなく、はいはいと手を挙げて生き生きやっていたので、どこに原因があるのかなと思ったり

します。

サラ

ありがとうございます。日本の学校でも色々ですからね。先生にもよりますし、みんながみんな杭を打つわけではないとは思いますが、こうして伺うと、愛を求めてイスラーム学校に入れたいなという気にはなりますよね。

柚村

すみません、1個だけいいですか。

サラ

1個ですよ。

柚村

さっき伺ったように、2世のムスリムの子たちの85%が、ムスリムとしてのアイデンティティを持っていないということを考えたら、レベルアップとかもあるけれど、それ以前に、イスラームの基本的な知識を家で教えるのが難しい家庭は、その部分を学校に任せたいというニーズはあると思うし、それはメリットだと思います。

サラ

そうですね。自覚を持てますよね、自然にね。ありがとうございました。

次に、スライドの右側にあるデメリットの方をご覧くださいたいです。こちらには、登壇者の皆さんから事前に回答いただいた意見を書きました。そうすると、ほぼほぼ上の7個ぐらいは同じ内容です。皆さんが心配していることは大体共通しているようで、「日本の常識や社会性、空気感を身につけられない」ので、「日本人でもなく外国人でもない」、異質な存在になることを懸念されています。

参加者の皆さまへのアンケートもとっていますが、その中でも、やっぱりこの点を本当に多くの方々が言及されています。例えば、「日本社会と切り離されて教育がされている」、「ムスリムコミュニティ以外の場での社会生活が難しくなる」といった不安をお持ちの方が随分いらっしゃいました。このデメリットの方もお話していきたいと思います。どなたからでも結構です。お気づきの点や事前のアンケートに補足したい点があれば。はい、林さん、よろしくお願いします。

林

私は先ほど、今のところイスラーム学校に子どもを行かせたいとは正直あまり思っていないというお話をさせていただきました。その原因の大きなところに、今まで私が20数年間日本で出会ってきたムスリムのかなりの...、「かなりの」と言ったら語

弊がありますが、本当に人によりますが、正直、一定数の方たちは非ムスリムを見下して。なんて言うんですかね、「俺たちが正しくて、あいつらはわかってないんだ」みたいな態度の方がいるんです。イスラーム学校の関係者に、そういう人がいらっしやるのを見てしまうと、自分の子どもがそういう風になってもらっちゃ困るんだよねっていうのが正直なところ。それがやっぱり、1番デメリットかなという風に思っています。

うちは特に夫がアメリカ人なこともありまして、いずれにしてもムスリムがマジョリティの国ではないので、マイノリティのムスリムとしてこれから生きていくのであれば、非ムスリムの人をきちんと尊重して、かつ、自分がムスリムだという自信を失わないということを身につけてもらう必要があるという風に思っています。そういう意味で、今の日本にあるイスラーム学校がちゃんとそこに答えてくれるのかっていうのは非常に疑問かなと正直思っているところです。

サラ

そうですね。さっき明留が紹介した6校全部私も一緒に行きましたが、1つの学校の子どもたちが非ムスリムをすごく見下しているっていう。先生方がそういう姿勢でいたら当然子どもたちもそうなるので。自分たちはムスリム、でも学校の外に出たらみんなムスリムじゃないやつらだ、あいつらはなんとかだ、みたいな教育をしているイスラーム学校を見てしまったので、林さんのご指摘よくわかりました。

リーム

逆イジメになっている？

グフロン

そういう人たちは検閲した方がいい。ちゃんと、それダメだよと言っていくのはすごく大事だと思います。やっぱり今、僕ら2世のムスリムとして日本の社会で生きて、自分のムスリムアイデンティティを自分で見つけていった者としては、そういう考え方になりにくいんです。そういうところにいる人たちは、多分そういう風になっていることをわかってないと思うので。神様を信じるのは当たり前のことだと思っていて、信じてないってどういうことっていう。その彼らの当たり前で世界が出来上がっていると思うので、これは本気で、モスクだったり学校だったり、本当の意味のダアワや対話をどうやるのかということセミナーとか、指導みたいなものはしていく必要はあるんじゃないかなとは思っています。

サラ

「外国人がやるダアワみたいになる可能性がある」と書いていた人がいますが、や

っぱりそういうところにいると日本人の感覚というものがわからないので、頭ごなし「神様はいるのになんで信じないの？」みたいな。なんかこう、前提が違うところがありますよね。

グフロン

そこは常にコミュニティでお互いに、良い意味で監視し合って、友人同士でも会話の中で、人間関係の中で、行き過ぎてないかなとか、この人大丈夫かなというのを、ちゃんと監視し合うというのは、すごく必要な気がしますね。

サラ

どうぞアンマールさん。

アンマール

さっき明留くんが紹介してくれた学校のリストで、非ムスリムが30%いる学校がありました。そういった学校だと、ムスリム・非ムスリムで分けるのではなく、みんな一緒に勉強してるから、ムスリムは非ムスリムから学ぶし、非ムスリムはムスリムから学んで、お互いうまくやっていける環境ができるんじゃないかなと思って、いいんじゃないかなと感じました。

サラ

そうですね。本当は、ムスリムと非ムスリムが交じり合うといいんですけど、今あるイスラーム学校は基本的にムスリムだけ。

アンマール

ほとんどがムスリムマジョリティですからね。先ほども話に出ましたが、日本では出る杭が打たれるから、陸の孤島っていうか囲いを作っちゃって、そこにムスリムだけを入れてしまう。そうすると、やっぱりどうしても、over confidence（自信過剰）っていいですか、自分のself respect（自尊心）が高くなってしまいます。そういう人も出てくるのは仕方ないんじゃないでしょうか。

サラ

では、柚村さん。

柚村

とはいえ、やっぱりムスリムとしてのアイデンティティや知識が全然ない状態で育

っちゃうブラザー、シスターたちがいるのは、非常に辛いです。親としても、子どもが「僕はムスリムじゃない」「私はムスリムじゃない」って言い出したら、それは日本社会と溶け込むとかいう以前の問題で、そっちの方が優先。ちょっとこれメリットですね（笑）。またデメリットの話に戻ります。そういうことがあったから、日本社会に溶け込むとかいう以前に、イスラームを守り、現世でも来世でも幸せになるということをお大事にして、イスラーム学校に入れた方がいいと言う親たちもいると思います。

ただ、やっぱりデメリットとしては、ムスリムの教育をなかなかできなかった人たちが、イスラーム学校に子どもたちを任せたらどうなるかって言ったら、学校に任せすぎてしまうっていう問題が出ると思います。実際に外国人のシスターが教えてくれたんですけど、自分の国にいた時にはイスラーム学校があるから任せてきたけれど、それは実は、みんながイスラームの実践をやっていただけで、いざお母さんの留学やお父さんの仕事で日本に来たら、その途端に子どもがイスラームの実践ができなくなってしまう。それはどうしてかと言うと、イスラーム学校のデメリットで、親が学校に任せすぎてしまい、子どもが非イスラーム圏でイスラームの実践を行わなくなる可能性もある。そういうのがデメリットにあると思います。

サラ

そうですね。参加者の方の事前アンケートでも、インドネシアの学校をご存じの方が、イスラーム学校を出た後は、ムスリムではなくなってしまう人が多いということをお挙げていました。だから、やっぱり学校に任せると、親は何をしてるんだという状態になってしまいますね。シャフナさんはスリランカのイスラーム学校のこともお存じですよ。

シャフナ

私たちが結婚したのは、もう30年ぐらい前のことですが、うちのスリランカ出身の主人たちは、イギリス統治時代からの伝統のある学校を、小学校から高校まで卒業しています。そこは、ムスリムもムスリムじゃない仏教の方もクリスチャンもみんな混じっている学校でした。それが、大体20年、25年ぐらい前からでしょうか。世界中でイスラーム回帰の動きがありました。スリランカですごく変わったのは、女性でサリーを着る人が全然いなくなって、皆アバーヤを着て、ニカーブをつける人がすごく多くなりました。その中でイスラーム学校っていうのが色々できていき、今、日本のイスラーム学校でやっているようなブリティッシュ式のイスラーム学校や、イスラームでなくてもインターナショナル、そういう学校がたくさんできていきました。

それから20年、25年ぐらいが経ち、イスラーム学校を卒業して大人になる人が出ている中で、就職や進学の時にごうんごう困ってしまっています。やっぱり、ブリティッ

シュ系のカリキュラムを学ぶイスラーム学校を出ただけではスリランカでの大学入学資格がないので、留学しないとイケない。留学するにはやっぱり資金がいる。その中で、何もできなくなってしまう人がたくさんいます。

今、日本にもでき始めているイスラーム学校は、1つは移民問題だと思うんです。今たくさん来られているスリランカからの移民の中でも、日本の学校に入れている人と、イスラーム学校または自宅からオンラインで勉強させている人がいます。この2つの中でさえも、日本の学校に入れている人に対して、「いや、あなたたちはハラームの学校に入れているんじゃないか」と言われることがあります。同じ出身国のムスリムの中でこのように分断していく状況ができているところなんです。

サラ

ハラームの学校ですか、日本の学校は。さっきの話にも繋がりますが、見下すっていうことになるのがとても怖いですね。まだリームさんと戸田さんはお話になっていませんが。はい、戸田さん。

戸田

先ほど林さんがおっしゃっていたようなことは私もすごく危惧しています。プラスちょっと表現的に誤解を生むかもしれませんが、私としては表面的な、鉤括弧付きの「ムスリム」としてのアイデンティティみたいなものが肥大化していくことは、非常に危ないと思っています。イスラームって、生き方であったり信仰であったりってことなのに、とりあえず「ムスリム」だから偉いとか、私は「ムスリム」なんだという意識だけを強めていったところで、結局それって、日本人とか中国人、韓国人とか、そういうナショナリズムというか、そういうところに矮小化されていってしまうことを危惧しています。イスラームってそういうもんじゃないでしょう、生き方でしょう、帰依する人なんだろうと。なのに「ムスリム人です」「ムスリムだからいいんです」みたいになっちゃうのはよくないんじゃないか。そこを目指してるわけじゃないでしょう、と思うんです。

そうではなくて、神様への信仰を持って、来世でも善く、現世でも善く生きるというところで生きていってほしい。そういった人として生きていってほしいのに、他者と差別化するための「ムスリム」としてのアイデンティティだけが先行してしまうというのは危惧するし、そういうのがイスラーム学校では起こりやすいんじゃないかというのは、親としては非常に不安です。子どもの頃だとアイデンティティ問題、特に外国にもルーツをもつ子どもたちのアイデンティティ問題というのもあるので、それはそれとして考えなければならぬと思います。ただ、繰り返しになりますが、単なるアイデンティティとしての「ムスリム」みたいなことが強まっていくのは非常に危惧しています。以上です。

サラ

ありがとうございます。おっしゃる通りだと思いました。まだあるかもしれませんが、他のデメリットについても話しましょう。例えば、イスラーム学校の運営の問題ですね。教師やカリキュラムに関して、不安をお持ちの方もいらっしゃったので、これについても議論していけたらと思います。はい、戸田さん。

戸田

「イスラーム科目」と書いてあるんですけど、先ほどからも議論に出ていたんですが、講師や先生の、言い方は悪いですけど質と言いますか、そういったところで不安はあったりします。第1回のムスリムミーティングからずっと話題に挙がっていますが、特定の国で実践されているローカルのイスラームを、「はい、これがイスラームだからね」と言われてしまうのは、ちょっとやめてほしいなと思うんです。例えば、特に子どもにとって、その時の先生ってすごく大きな存在だと思うんですよ。今でもそうですが、娘と漢字の練習とかをされていてですね、「ここ、こうだよ」と私が言っても、娘は「先生、こう言ったもん」と言うので、私は「あ、はい。」みたいな（笑）。「こういう考え方もあるし、こうなんだよ」と伝えても、なかなか難しいこともあります。そういった時に、先生によってすごく左右されてしまう。漢字であればいいですが、どこどこの国のイスラームみたいなのが伝えられちゃうと、どうなのかなど。

特に、日本で生きていく上だと、イスラームの中で、何が優先されるのか、何が大事で、何は枝葉のことだから放っておいてもいいんじゃないとか、そういう取捨選択をしてくれるのか、とかですね。神学のことで言うと松山洋平先生とかが色々と発表されていますが、グレーゾーンが実はあるんだよ、単純に白黒じゃないんだよとか。そういったところまでの視点を持った先生なのか、あるいは、現時点でそういった視点がなくともこれから学んでいってくれる柔軟性がある先生なのか、みたいな。だいぶハードルが上がってしまいますが、そういうところは考えます。ローカルで「偏った形の「イスラーム」」なのであれば、教えなくてもいいんじゃないかって思ったりしています。以上です。

サラ

どなたか他にもいらっしゃいますか。はい、アンマールさんお願いします。

アンマール

僕たち第二世代と僕たちの親世代、つまり移民として日本に来た人たちとよくぶつかる話が、彼らは質より量と考える人が多くて、モスクも質はどうでもいいからとり

あえず作ろうと考える人が多いです。イスラーム学校でも、それが言える学校はあるんじゃないかなと思います。とりあえず付け焼き刃で、持っているものや、いる人たちだけで、先生の質が無かったとしても、教員免許は持ってないけど、とりあえず始めましょうと。5年、10年経てば良くなるからと考えて、始めるところもあるんです。

そう考えた時に、公立の学校などと比べてしまうと、やっぱり質の面で、校舎の設備がしっかりしてない、校庭がない、理科室がない、図書館が小さいとか、懸念することもあると思います。僕がもしイスラーム学校を設立するのであれば、もっと時間をかけて、10年、20年の長いスパンで行うんですが、僕たちの親世代はとりあえず今ある資金と今いる先生たちだけで始めようと考えてがちなんじゃないかなと思います。

サラ

まさにそうだと思います。第一世代に任せないで、第二世代に作ってもらうのが1番。

アンマール

ただ第二世代は、行動力がないんですよ（笑）。

サラ

第一世代は行動力しかないの（笑）。

アンマール

ウルドゥー語で”الله مالک ہے (Allah malik hai)”⁵ っていう言葉があって、このフレーズは「アッラーに全て任せておけば大丈夫」というニュアンスでよく使われます。第一世代には、その概念がしっかりあるから、リソースが足りなくてもとりあえずやろうという行動力があるのだと思います。その反面、第二世代は良くも悪くも慎重派が多いから、発想から実現までに時間がかかることが多いのかもしれないですね。

グフロン

信仰心が低いよね（笑）。

サラ

第一世代は、モスクは作る、学校は作るんですけど、たしかに言われてみたらおっしゃる通り、質より量ですね。

⁵直訳は「アッラーはマーリク（主、所有者）である」。

グフロン

多分僕ら第二世代は、良くも悪くも日本人なんですよ。

アンマール

そうそう。

グフロン

だから、作るならちゃんとやりたい。

サラ

グフロンさんとアンマールさんは、日本の学校に行って良かったかもしれないですね（笑）。参加者の皆さまのアンケートでも、イスラーム系の科目が多すぎるため、一般科目の比重が相対的に軽くなってしまうのではないかとか、イスラームばかり勉強していたら、国語算数理科社会といった一般科目をどうするのかと懸念されるご意見もありました。リームさん、実際通わせていらっしゃるんですけど、何かそんな感じはありますか。

リーム

デメリットの話、別の話はできますが、イスラームの科目が多かったというのは全く感じてないです。むしろ、漢字が少し苦手になったりとか。国語も勉強しますが、もちろん普通の公立学校と違っているのは事実です。だからと言って、イスラームの科目がすごく多いかということ、そこまでじゃない。自分の体験から見たデメリットは、やっぱり設備不足と言いますか。

サラ

リームさんがお子さんを通わせていた学校は、かなり設備的に恵まれている方だと思います。

リーム

恵まれている方なのかもしれませんが、途中で引っ越したので、パパが毎日1時間近くかけて車で朝送って行っていました。帰りも帰宅ラッシュで、小学生だから、新宿経由で乗り換えるのは難しかったです。それもあって、一度退学してしまったんですが、今は子どもが大きくなって、1人での電車の乗り換えは問題なくなったので、またイスラーム学校に戻そうと考えています。

ただ、先ほどの話に出てきたように、教師の問題は私も感じています。全員が教師

の資格を持っているわけではないんです。持っている人もいます。でも、全員ではないです。経験が豊富な先生方もいるけれど、それは全員ではない。これも私は引っかかっていましたが、それが退学させようと思ったメインの理由ではないんです。逆に、イスラーム学校の先生たちも悪くないと思うところがあります。やっぱりボーンムスリムであったり、あるいは日本で長く生活している人たちですから、身についたことは子どもたちに伝えるだけで意味があると思う。さっきグフロンさんもアンマールさんも話していたように、本当の愛情ですね。

私は教育関係者として、日本の教育で感じるのは、場合によって表面的なところもあるということです。「本当にありがとうございます」が、本当に心からの“ありがとう”かどうか分からないです。あと、親への尊重とか親孝行とか、あるのかどうか。多分日本人だけだと分からないかもしれない。外国に接して初めて、どれくらい親への尊敬の心があるのか、とか気づくのかかもしれない。ムスリムとか外国人じゃなくて、日本に在住している国際色が豊かな存在を育ててほしいなっていう風に思っています。次の世代には、本当の意味の社会貢献をしてほしいと願っています。

サラ

設備のことに話を戻しますが、リームさんのお子さんが通われていたイスラーム学校は、かなり設備的にもいいところで、先ほど明留が6校紹介した時に写真もお見せしましたが、階段が写っていたのを覚えていますか？校庭がないどころか、もう本当に雑居ビルの3階にあるような学校もあるんです。ちょっとそこは不安になるなっていうのは実際に見た感じでありました。林さん、お願いします。

林

今の設備のお話に関連してですが、やっぱり小学校から高校の時期って学力だけの問題じゃないと思うんです。学校での授業を受けるということと、体育の授業がどうなのかもありますけれども、それに加えて部活だったり色々なことをやって、色々なことを身につけていく時期だと思うんです。その時に校庭や体育館がないみたいな感じだと、じゃあ部活は何ができるのかとか。やっぱり選択肢がものすごく狭まってしまうと思うのです。それでいいのか。

子どもにはある程度毎日運動量が必要で、ある程度定期的に走り回れるような場所がないと、多分運動量が足りないと思います。そこを削ってしまって健康に問題はないのか、というのもちょっと気になります。あとは今、学力の問題じゃないと言いましたが、一方で学力もすごく問題だと正直思っています。将来、何か私はこれをやりたいというものが見つかった時に、そこに進めるかどうか、そこに行く選択肢があるかどうか、やっぱりそれまでの学力にかかってくるところがどうしても大きいと思っています。例えば、中学生で私やっぱり医者になりたいわって思った時に、中

学校から医学部に入れるだけの学力に回復できるかどうか、現実的に問題となってしまふのかなと思ってます。

なので、日本の大学とか、その先の進学とか就職とかを考えた時に、イスラーム学校に行って、それで本当に間に合うのかっていうのはちょっと気になるなと思ってます。

サラ

質より量ですからね(笑)。しょうがないですよ、そこは。はい、グフロンさん、お願いします。

グフロン

デメリットとして、学力に関しては僕もすごく思っています。日本語や漢字もそうですし、日本社会以外でも、生きていく上での学力が果たしてちゃんと身についたのかどうかは、僕もすごく心配しているところの1つです。設備に関しては、日本では、特に学校の外の設備が素晴らしすぎて、僕らの税金で作られている、国が作った設備や、公共の公園。公園も公共の施設もすごく綺麗です。あとは習い事。お金や時間がかかりますが、代替策として学校の外でできることが、日本はすごく豊富だと思うので、その点は懸念はないかなっていう気はしています。

部活動についても、僕はバスケ部でしたが、正直すごくストレスでした。体育会系の部活にしても、文化系の部活にしても、部活動をストレスに感じてる日本の学生って多分多いと思います。会社みたいな感じで、入らないと帰宅部と言われてしまって、部活に所属していないと社交性がないとか。部活に所属したら、土日も練習で、毎日夜まで練習で、先輩にペコペコしなきゃいけないで大変。これが当たり前の世界が日本の学校にはあるので、そういう意味では、日本のイスラーム学校で部活がないって、めっちゃいいじゃんって個人的に思ったりします。

なので、設備に関しては、学校の外のすごく素晴らしい緑と公園と綺麗な設備もたくさんあるし、部活に関しても、そこにいけば何かしらのコミュニティが開いていて、ムスリムじゃなくてもバスケをやっている若者がいたり、音楽をやっているサークルがあったりするので、それに関しては懸念はないかなと思います。ただ、学力に関しては本当、正直すごくそれは心配しています。

サラ

先生の質がわからないのは事実ですよ。出身国の教員免許をお持ちなのかどうかもわからないですが、不安ですね。はい、シャフナさん、お願いします。

シャフナ

やっぱり結局、学校に行くのは子どもなので。良くない大人がやっていたりすると...。モスクでさえも全国で関西が1番多いのかもしれないですが、すごく男の人のエゴと見栄がね。自分の名前を 入れてらっしゃる人もいるし。自分がやってるからいいんだみたいな感じで。質より量の話でね。自分はやったんだという大人の満足のためにやるのではなくて、やっぱり通うのはお子さんなのでね、未来のある子どもたちに、日本で楽しく平和に生きて、生きづらさをちょっとでも無くなるような、良いものであるならばね、受け入れていったらいいんじゃないかなと思うんですけど。

グフロンさんが言われるように、愛を持って教育してほしいですが、それは今の時点では学校にはなくて。もっとムスリムのコミュニティが愛を持って、ムスリムの子どもたちを受け入れてあげて、少しでも目を光らせて、色々なトラブルに巻き込まれないようにしていかなければいけないのではないかなと思います。

グフロン

今、愛情を育むという話がありましたが、イスラーム学校で育まれる愛情って、多くが先生からの愛情じゃないかもしれないですね。今ふと思ったのが、生徒が愛情というものを学んだ後に、生徒同士、お互いに愛し愛されるということをやっているかもしれないですね。もしかしたら先生からの愛情というよりも、結局、そのコミュニティの中で生きてる人たちが、お互いにそれを広げていく。イスラーム学校で、今、上下関係の中でそれができてなかったとしても、少なくとも横の繋がり同士でそれをやっているのでかなという気がしています。

サラ

学校がなくてもコミュニティの中で愛情を育んでいくことは、おそらくできるということですよ。今はないっておっしゃっていたんですけど、じゃあこれから第二世代で、頑張って作っていくとしたら、今挙げたデメリットを、どう改善していけば良いイスラーム学校ができるのか。もっと良い学校が増えていけば、今挙げたデメリットが消えていけば、メリットの多い、愛がいっぱいある学校になると思います。皆さんがイスラーム学校に望むこと、期待すること、いかがでしょう。これから学校を作る気で、どんな学校にしましょうか、アンマールさん。

アンマール

前例はあります。さっき明留くんが紹介した中の学校の一つには、運営陣の中に第二世代が既に入っていて、色々新しいことをやったりしているので、そういう学校が増えればいいんじゃないかなと思います。運営に関わらなくても意見を言えるとか、実際に公立の学校通った僕たちの経験とかも踏まえて、もっと日本っぽくしてもいい

ところは、そうした方がいいし、日本の学校から取り入れるべきものは取り入れていいんじゃないかと思います。

サラ

第二世代で頑張ってもらいたいですね。もう1人の第二世代、どんな学校を作りたいでしょう。グフロンさん。

グフロン

勉強しないで、一日遊んでいい学校。

サラ

こら（笑）。

グフロン

そうですね。僕は元々、アートとかそういうものに興味があって、デザインの勉強をしてきましたが、イスラーム学校や今のイスラームコミュニティの中で欠けているものの1つが、そういうセンス、感覚的な芸術的な部分。その比重がすごく・・・。

サラ

イスラーム学校では音楽や美術をあえて授業に入れていない学校もありますね。

グフロン

そうそう、それもありますし、コミュニティとしても、そういう部分での感性を育むのはかなり大事な部分だと思っています。設備がないということはもしかしたら問題ではないかもしれないけれど、国語算数理科社会、プラスイスラーム学だけで終わってしまうのではなく、ちゃんとそういう意味での表現の授業だったり。施設1つとっても、例えば雑居ビルの中に学校があるというのは、審美眼的にすごく気持ち悪いし、環境的にも良くない。環境的に良くないよねということをちゃんと分かってくれる人が中にいれば、改善していこうってなるはずなんです。

たとえ雑居ビルでも、古民家とか雑居ビルの中にあるお店でもすごくお洒落なところは洒落です。学校も別にお洒落じゃいけないという決まりはないです。だから、綺麗にするためにはどうすればいいのか、綺麗な施設にする必要がなぜあるのかということ、ちゃんと理解した取り組みがあるといいのかなと思います。

サラ

そこは日本的な視点がないと難しいですよ。

グフロン

そこは日本の学校のすごくいいところだと思います。綺麗だし、使いやすいし、過ごしやすい。

サラ

第二世代の意見を受けていかがですか。はい、リームさんどうぞ。

リーム

日本でイスラーム系のインターナショナルスクールが増えつつあるのは、幸せなことだと思います。日本社会にもプラスだと思います。だから私の子ども2人も、日本人でもありムスリムでもあるけど、プラスですね。マイナスなことは一切ない。

2024年の統計によれば35万人の在日ムスリムがいるわけですし、今後急増していく可能性も少なくはないです。日本も今グローバル化しつつあって、これからも東南アジアの人たちが入って来たり、少子化問題が激しくなっているから、多くのムスリムたちが外国人労働者として入ってくる可能性が高まってきているわけです。日本社会にとって、こういうイスラーム系のインターナショナルスクールは非常に大事です。だから、今後こういう学校は学校法人としての資格を持って、日本社会から、国からの補助金が入らないといけない時代になると私は強く思っています。国際化が進んでいる中で、日本にとってもメリットがあるから。教員の免許を持ってない先生方も働いていることを事実として受け入れているのは、仕方ないからだと思います。

でも、例えば私が大塚のイスラーム学校に研究に行った時、そこでは長らく日本の小学校で働いたことのある日本人の先生方も教えていました。そのような日本の非ムスリムの先生方がムスリムたちに教えているわけです。友愛でも教員の免許を持っている先生もいます。そういった先生のためには、給料も必要じゃないですか。学校法人ではない限り、あるいは補助金が入ってない限り、なかなかそういう先生が集まらないのは事実ですから、今後日本社会も協力してほしいと思っています。

サラ

そうですね、行政も巻き込んでいかないといけないことですよ。ありがとうございます。はい、シャフナさん、どうぞ。

シャフナ

そうですね。リームさんの言われたこととよく似た話なんですけど、実は私もイスラーム学校を求めて、1ヶ月ぐらいですけど、1番上の子を連れてオーストラリアのイ

スラーム学校に滞在したことがあります。その学校が、その時ちょうどモスクの横の民家を改装して、プレハブのような状態で作っていた段階だったんです。しかし、今から20年前と言っても、オーストラリアは日本と比べて移民の歴史が長いので、ムスリム移民の子どもたちが大きくなり、教師の免許を取って、その人たちが教員となって、オーストラリアのカリキュラムを使って勉強させていました。だから、そのイスラーム学校を卒業すると、そのままオーストラリアの大学に進学ができるという状況でした。

こういうイスラーム学校を卒業後、オーストラリアの大学などに進学して、医師や弁護士になった人もいます。普通のオーストラリアの人と同じ教育をムスリムの学校で受けることができるという状態になっているんですね。日本でも、そういうところを目指したいです。やっぱり次世代の、今の若者たちの中で、教師を目指す人が出てきてほしいですし、そういうムスリムの先生になろうとする方をムスリム社会として支援をしたりすることは必要だと思います。

公共事業ではないですが、今は少子化なので、学校法人やそういうところで色々な多様性を求めているというのは必ずあると思います。実際、大阪マシジドは、以前、専門学校だったビルが切り売りされていたところを買い取りしたのです。だから、本当は学校にはぴったりのビルだったんです。そういうところに入り込んで行って、学校を運営しようという動きを、ぜひ次世代の方にやっていただきたい。それができないと思わないでほしいんです。第1世代は何もないところにモスクを建ててやってこられたので、次世代にはきっと学校の運営も期待できるのではないのでしょうか。

サラ

まだ何か言っていない方いらっしゃいますか。はい、柚村さんお願いします。

柚村

私も、非ムスリムの先生がイスラーム学校にいるというのはすごくいいなと思いました。先ほどから話題に出ている日本社会で馴染めるかどうか心配という意味では、ムスリムの先生ばかりじゃなくて、やはり積極的に、ある一定の割合は非ムスリムの先生にお願いしたり。あとは生徒さんたちも3割非ムスリムの学校があると先ほど聞きました。これは、日本人のお子さんたちとは限らなくて、外国人のお子さんかもしれないけど、もうちょっと日本人のムスリムじゃない人も入りやすいような感じにして、交流をして、一緒に過ごしていけたらいいと思います。ただ、主導権じゃないですが、運営側はムスリムがやるので、イスラームの教育もできる。キリスト教の学校ってそういう風にやっていますよね。

サラ

そうですね、日本のキリスト教の学校は、キリスト教徒とそうでない生徒が混ざっています。

柚村

そういう中で、生徒たちにキリスト教を教えていますよね。そういうような雰囲気、学力もきちんと担保できるというのが理想かなと思います。あとは、私が先ほどから心配している「僕はムスリムじゃない」と言う子どもたちのことをちゃんとサポートできるように、親が学校任せにしないように、学校だけが責任持つわけじゃなくて、学校とかモスクとかコミュニティ全体で家庭をサポートしていくような、その一端を担うようなイスラーム学校ができたらいいと思います。

サラ

おっしゃる通りだと思います。最後、グフロンさん、どうぞ。

グフロン

メッセージというか、これから子どもが大きくなる親御さんたちに対して伝えたいことの1つなんですけど、僕は日本生まれ育ちで、ずっと日本の社会で、ムスリムとしてのアイデンティティを探りながらボーンムスリムとして生きてきて、今ムスリムとして生きています。ムスリムのアイデンティティとかイスラームって何？というのを探す旅って孤独で、すごく苦しいんです。今まだ子どもが小さい時って、天性があるんです。子どもたちってすごく純粋で良い子に見える。もちろん良い子なんですけど、それが大きくなって思春期に入ると、多分、急に悪い言葉を使ったり、急に親の知らない世界でなんか悪いところに行き始めちゃったりするんです。なので、今、子供が小さいうちにできることは、その種を植えるっていうこと。イスラーム学校に通うでもいいし、コミュニティに入れるでもいいし、イスラームを教えるでもいい。彼らがこれからイスラームを見つける旅をする上で、種が植わっていないと何も芽が出ないので、それを何らかの形でやらなければいけないというのが親の責任だと思うのです。何も教えていなくても、なんとなく知ってくれるだろうという期待は絶対にしない方がいいと思います。

あとは、日本社会の中で、マイノリティのムスリムとしていた方が、ムスリムのアイデンティティがわかってくるということも多分、あんまり期待しない方がいい。今はもしかしたら、それでいいかもしれないけれども、ある程度大きくなった時にきつと難しくなってくるんです。今を見て、子どもはいつか大人になる。それがきつと思っっているよりも早い。なので少しでも、イスラームが何なのかを、自分を通して、または他人を通して伝える努力は絶対にした方がいいことだと思います。

僕にも今、2歳半と生後4ヶ月の子どもがいますが、絶対にそこは手を抜かない方

がいいことの1つで、常に緊張感を持って、どんな種を植えられるのかなと考えながら動こうと思っています。そこから先、芽を出すのはもう神様の計画で、いつ芽が出るかは神様に任せてという感じです。

サラ

イスラーム学校よりもお母さんとお父さんが頑張らなきゃいけない話になってきてお話も盛り上がりましたが、一旦この辺りで前半の意見交換を閉じようと思います。何か付け加えたい方がいれば。はい、林さん、どうぞ。

林

最初に言わせていただいた、非ムスリムを見下すムスリムになってほしくないというところで、本当にこれからのイスラーム学校では、先生の教育というか、先生の質の担保っていうのも、そういう意味でどうにかしてほしい。どうにかしてほしいと言いたい方もあれですけど、その点を経営する方には見てほしいと思っています。あとは、勉強という意味では、なかなか道のりが遠いかもしれないですが、やっぱり将来的には一条校になってほしいなと思っています。やっぱり一条校じゃないと、長続きしないという気がしますし、親が安心して預けられるというのは、それなりの理由が一条校にはあると思います。そういう意味でも、一条校を目指して行ってほしいです。

サラ

そうですね。教育基本法的一条に定められたという意味での、「普通の」日本の学校のことですね。一条校であれば、国からのお金が出ますので、月謝が無料になったり、あるいはとても安く行けるようになります。今、学費が高いという問題は誰も触れませんでしたけど、そこもやっぱり大きな問題になっていると思います。そういう意味で、一条校を目指して、日本的な感覚を持っている人が運営側に携わっていくことが大事ですね。

グフロン

杭は出るタイプの学校でも大丈夫ですか。

サラ

杭は出たままの方がいいですよ。皆さん、杭をちゃんと伸ばして。でも、そうすると、デメリットにあるように、日本社会の空気感が掴みにくい生徒たちが育つ。

グフロン

多分、日本社会には異質な存在も必要だと思うんです。それが、ダイバーシティの

本当の豊かさだと思います。あなたはそれでいいんだよと言ってくれるような社会を作らないと。

サラ

愛情を持ってね。なんかいい感じにまとまってきました。では、そういう学校を目指したいということで、一旦こちらの議論は終わりにさせていただきます。ご参加の皆さま、すでに質問を書き込まれていると思いますが、ただいまを待ちまして受付を締め切らせていただきます。今、15時40分ですので、10分休憩をして、15時50分に質疑応答に入りたいと思います。アスルの礼拝をされる方はこの10分で行っていたき、15時50分になりましたらお戻りください。

<第2部> (15:50~16:30)

質疑応答 / 議論のまとめ / 閉会の挨拶

サラ

15時50分になりましたので、後半の質疑応答に移ります。たくさんご質問をいただきましたが、時間の都合上、ご質問1つにつき、お一方もしくはお二方程度の回答で次に移らせていただきます。では、最初の質問に行きたいと思います。

まず、イスラーム学校に通っている生徒の卒業後の進路について。

「卒業後は海外の大学に行くつもりでしょうか。それとも、日本で生活するつもりでしょうか。」

今回ご登壇いただいている皆さんはお子さんを日本の学校に通わせていますが、何かご存知の事例などあれば、あるいは、リームさんがこの後イスラーム学校にお子さんを戻した場合、将来どうされるかというあたりを、1分半ぐらいでお願いします。

リーム

どちらの可能性もあります。友愛では高校3年生まであり、私が見た限り、卒業後は、日本の大学に通っている子たちもいます。うちの娘はまだなんといっても小学生ですから、どんな運命になるからわからないですが、どちらでも可能です。

サラ

他に何か事例をご存知の方。

グフロン

僕が友愛で教えていた時に小学生や中学生だった子たちが、今は卒業して大学に行っていますが、日本の大学に通っている人もいれば、マレーシアの大学で寮生活をしている人もいます。他にも、卒業してから半年はちょっと日本でぶらぶらしていたけれど、エジプトで大学が決まって、今はそこに通っているっていう人もいます。やっぱり皆さん、それぞれ進路を決めて色々なところに行っているという感じです。なので、リームさんがおっしゃったように、日本でも、海外に行くでもあり。大学進学について、友愛では、選択肢は割とあるかなと思います。

サラ

友愛に関しては、ですね。先ほど明留が紹介した6つの学校のうちの1つは、校長先生が、やっぱり近くの外国というところで、マレーシアをターゲットにしたいとおっしゃっていました。ほかに、生徒の進路は100%外国と考えているような学校もありました。学校の方針というのものもあるのだと思います。

戸田

海外の学部に行く場合は、一般の学部になるんですか？それともイスラーム学部になるんですか。人それぞれですか。

グフロン

今回話した子たちは、みんな一般の学部で学んでいます。

戸田

そういうことですか、わかりました。ありがとうございます。

サラ

次の質問に行きます。第二世代のお二人に対して。

「日本で生きる方法」の必要性和学習場所について。「アンマールとしての自分」とは異なる「アマルとしての自分」を日本社会で生きるために身につけたという話がありました。その「アマルとしての自分」、あるいはグフロンさんが語る「杭として打たれない術」は、日本に生きるムスリム皆が身につけた方がいいと思いますか。それは、イスラーム学校で得ることができるとお考えでしょうか。」

グフロン

日本に生きるムスリムに限らず、非ムスリムも含め、みんな身につける方がいいこ

とだと思えます。イスラーム学校で得ることはできると思えます。さっきも言ったように、みんなが杭なので、打つということがまずないし。打つことと言ったら、これは悪いことだよという善悪の基準で打たれるのはあるんですけど、個人的な個性の部分で打たれることはないと思う。生徒や先生たちの国籍も様々なので、その時点でその違いを受け入れるのが当たり前という環境にあるということとは言えると思えます。

アンマール

アマルとしての自分とアンマールとしての自分っていうのは、あくまで接し方を変えていたということで、二重人格とかそういう話ではなくて、そっちの方が生きやすかった。そっちの方が生活しやすくて、自分はそっちの方がうまくやり取りできたからよかった。でも、みんながみんなそうした方がいいという訳ではないと思えます。

グフロン

「日本に生きるムスリムはみんな身につけた方がいいと思えますか」に関しては、どちらかという、日本に生きるムスリムでは、杭として出ないようにすることを努力する人が多分多いと思うので、「出る」ということが悪いことではないという考え方を身につけるのは大事なかなと思えます。社会のノイズになるとか、例えばパレスチナの話もそうですけど、誰も何1つそのことを語らない中で、1人がノイズを作っていれば、社会的な問題として気にしてくれる人がいるじゃないですか。それと同じで、異質なものと、不都合な存在があることの大事さを理解しつつ、自分が「出る杭」だなと感じた時の受け入れ方や考え方を身に付けていければいいかなと思えます。

アンマール

アイデンティティの確立という話で、自分がこの時にアイデンティティを確立したなと思ったのが、マレーシアの大学に留学して自己紹介をする時に「日本から来ました」と言うとびっくりされるんです。それで、その説明を毎回するのが面倒くさいから「パキスタン出身です」と言っていたんです。そのことを、アメリカ旅行の時にできた友達に話したら「もったいなくね？」と言われました。「日本出身でパキスタンのバックグラウンドがあって、ダイバーシティなのに、それを活かさないのはもったいないよ。絶対自己紹介で言った方がいいよ」と言われて。そこからはちゃんと”I’m from Japan originally from Pakistan”と説明するようになりました。

グフロン

僕も「グフロンです」って日本で言うと「どこの人？」って聞かれちゃうんですけど、ニューヨークに留学した時に、「グフロンです、日本出身です」と言っても、誰

も「なんで日本なのにグフロンなの？」とか、「ムスリムなの？」とかを全然聞かれなかったんです。その時に初めて、「僕はグフロンで、ムスリムで、それでいいんだ」とアクセプトができたという経験がありました。

日本にいと、自分をどう定義づけなきゃいけないんだろうということに悶々としてしまうんですけど、世界をバーっと広くした時に、名前1つとっても、名前が違うとか、ムスリムというアイデンティティがどうっていのを定義づける努力は、思ってたよりもそんなに重く捉えなくていいんだと感じました。それは杭だから出ないようにしようとしていた自分が、変わる経験になったと思います。

サラ

そういう意味では、イスラーム学校の方がそういったものを小さいうちから身に付けられますよね。これでいいんだという自己肯定は育ちますよね。

次の質問に行きます。

「登壇者への事前アンケートの中の、イスラーム学校のデメリットにあった、「外国人がやるダアワみたいになる」というところがよくわからなかったです。書いてくださった方にもう少し説明していただきたいです」

という質問をいただきました。まず、「ダアワ」ですが、「イスラームを伝える」ということです。「外国人がやるダアワみたいになる」について説明をしてほしいとのことなので、書いてくださった方。はい、柚村さん、お願いします。

柚村

日本で育っている私の娘やグフロンさん、アンマールさんのように、日本の学校や日本のコミュニティに所属していると、私も日本人ですけど、日本人の空気感が分かるんですよね。こういうことを言ったら嫌がられるとか、何か思ってもセーブするとか、そういう塩梅がわかるんですが、外国出身の方はストレートに「この世界のが、アッラーがいる証拠です」とか言うこともあるんです。私たち日本人ムスリムや日本育ちのムスリムが踏み込めない部分に踏み込んでくれる外国人のダアワの良さはあるんですが、一方で、2世の子たちにはもうちょっと日本の空気感をわかった上でイスラームのことを紹介してほしいという思いがあるので話しました。

サラ

すごく今オブラートに包んでくださいましたが、実は結構ストレートなダアワをする方が多いので、日本の人に言ったら嫌がるよなというようなことを知っていてほしいですね、子どもたちにはね。

グフロン

言語的な表現や細かい表現の捉え方に関して、宗教ワードというだけで日本人には嫌悪感があったりする。二世や日本のことがわかっている人がイスラーム学校の先生になることは、その点でも大事で、神の祝福がどうか、地獄がどうか、来世がつてという言葉に対する嫌悪感がわかっているならば、もっと違う言い方で子どもたちに伝えることができる。そういう意味では日本語ができる先生がいいなと思います。

サラ

ありがとうございました。お気づきでしょうか。グフロンさんは「神様」と言いました。外国人の方は「アッラーが」というところから入るんです。ただ、いきなり「アッラーが」と言われると、日本の人は構えてしまう。グフロンさんは日本的な考えを持っているので神様という言い方をするんですね。そこで共通ワードがもうできるわけです。この違いというのが多分、外国人の方との違いだと思います。

次の質問に行きます。

「学校選びは親の一存では決められないと思うが、子どもがイスラーム学校に通うことに反抗した場合、どうしますか。学校選びをする際にはぜひ子どもの意見を尊重してあげてください」

ということですが、リームさん、お子さんがやっぱり日本の学校の方がいいと言ったらどうしましょう。

リーム

まさに私、最近そういう状況の中に生きています。子どもたちは最初、日本のイスラーム系インターナショナルスクールにも通っていて、最近区立小学校に移りました。私が、「また来年からイスラーム学校に行こう」と言ったら、1人の娘がやっぱり反抗して、「もうやだ、このままがいい」みたいな反応をします。ただ、まだ子どもに判断力があるわけじゃなくて、たまに「やっぱり懐かしい〇〇ちゃんに会いたいな」、「やっぱりイスラーム学校に戻りたい」みたいなことも言います。ころころ意見が変わるので、反抗している部分もありますが、おそらくまた通い始めたら、その良さにまた気づくかなと期待しています。正直言ったら、私はトライアルをしている最中です。私には先駆者がいるわけではなく、何か聞けるような先輩がいるわけではないので、自分でやって、その結果を見るしかないというのが現状です。

柚村

年齢にもよると思うんです。幼稚園から小学校に上がる時だったら、ここでいいかなみたいな感じで、ある程度、親の意見でいけると思うけど、もう小4とか小5・6年生とかになると、子どもの意見を尊重してあげないと、後々の親子関係にも影響してくるかなと思います。

サラ

ありがとうございます。次の質問に行きます。

「西欧では、ホスト国の言語でイスラーム学校の授業が運営をされていますが、日本の場合は英語だと思います。教授言語は英語と日本語のどちらの言語であった方がよいと思いますか。また、将来イスラーム学校に非ムスリムも入りやすいようにするにはどうすればよいと思いますか。」

2つの質問がありますが、どちらについてもいいです。はい、リームさん。

リーム

もちろん今はインターナショナルスクールですから英語がメインになっています。でも非ムスリムや、あるいはムスリムだけこれまで日本の公立学校に通っていた子も入りやすくなるために、最近では、日本語で教えるという試みもあります。インターナショナルなカリキュラムもあり、日本語のカリキュラムも教えるという教育方針は実際にあるのです。基本は英語ですが、日本語も使う学校は結構あります。

アンマール

1つ指摘したいのですが、イスラーム学校のデメリットで挙げたのがセミリンガルの問題です。途中で学校を変えると、日本語から英語になったり、英語から日本語になったり。それを繰り返すと、子どもが困ってしまう。それが子どもの言語の確立する時期に被ってしまうと、日本語もネイティブじゃないし、英語もネイティブじゃないし、ウルドゥー語もネイティブじゃない。セミリンガルの状態になってしまい、その後の教育に影響していくんじゃないかなと思います。だから、難しいですよ。

サラ

そうですね。現状として教員免許を持っていない先生方が、やる気だけで頑張ってるのが現状なので、そうすると英語でやるしかないんですよ。本当は日本語であれば、キリスト教系の学校みたいに一条校になる可能性も大きいんですけど。今現在、日本語で教えられる人がいないので、仕方ないという部分もあります。だから教員免許のある方が日本語で教えるイスラーム学校が立ち上がったなら、すごいと思いませんか。

グフロン

オーディエンスの方で頷いている方もいますよね。

リーム

でも日本のほとんどのインターナショナルスクールは英語です。ムスリムだからではなく、インターナショナルスクールに共通している。

サラ

今はイスラーム学校のコンセプトとして考えた時に、インターナショナルである必要があるかどうかという、そこに重きを置いて子どもを入れているかどうかかわからないですね。

リーム

在日ムスリムたちは、みんなが永遠に日本に残るわけではないです。中には外国人外交官の子どもたちのように、一時的に親の仕事の関係で日本に来ているだけの子どもいます。その子どもたちのために、こういう学校が設立されているというのは以前の研究の結果でも出ています。なので、もし日本語教育にした場合、一時的に来ている人たちはどうすればいいのかという問題が、逆に出てしまいます。中立的な解決策として、どちらもあった方がいいと思います。

サラ

選択肢が増えるのはいいことですね。インターナショナルのイスラーム学校と、日本に根差したイスラーム学校があるというのが。それは選ぶ方も助かるということですね。この質問の後半「将来イスラーム学校に非ムスリムも入りやすくするにはどうすれば良いと思いますか」について。経営側の問題になってくると思いますが、回答できそうな方はいますか？

シャフナ

1つの例として、2024年の夏に行われた高校野球の甲子園で優勝した京都国際という学校は、実は前身がコリアンスクールです。今は80%以上の生徒さんが日本人ということですが、校歌も韓国語で、韓国語の授業もやっている学校です。でも、日本の学校になっていますよね。何か特筆するものがあって、それで有名になって、その学校に魅力があれば、日本の人も行きたいと思えるようになる。そういう何かはその学校に芽生えれば良いんじゃないでしょうか。

林

一条校ではないですけど、今、中華系の学校や、インド系の学校って、色々な意味で注目されていて、日本人の親御さんでも入れたいという人が増えていますよね。イスラームを前面に出すことがいいかはわかりませんが、例えば、ここだったらアラビア語が勉強できるとかいうのも、将来的には魅力の1つになるのかなと思います

し、そういう意味では差別化できるんじゃないかと思います。

サラ

ありがとうございました。次の質問に行きます。

「イスラーム学校ではイスラームの教えに基づいた教育が行われていると思いますが、その代わりに何か他の科目を削らないといけないということもあるかと思いますが、日本の学校にはこの科目があるけどイスラーム学校にはこの科目がないというものがあれば教えていただきたいです。」

すいません、登壇者側では、この辺をわかった状態で進んでしまいましたけど、もっと最初の時点で説明すべきでした。どなたかご説明いただきたいです、リームさん、ご存知ですよ。

リーム

もちろんです。まず、道徳という科目ではなく、宗教の科目がありますね。これは日本だからではなく、ほとんどのイスラーム世界で同じです。例えばエジプトでは、コプト教徒もいて、ムスリムもいます。学校では、必ず宗教の科目があり、ムスリムはイスラームを、コプト教徒はキリスト教を学んでいます。あと、さっきも触れたように国語。日本語で学ぶ「国語」は、日本の小学校とか中学校に比べて少ないです。これが、主なカリキュラムの違いだと思います。

サラ

他にも、先ほど少し言いましたが、アート科目、美術とか音楽がないっていうところもあります。

リーム

友愛では普通に「アート」が教えられています。

サラ

もちろん学校によりますよね。逆に、日本の学校に通わせていても音楽の授業には参加させないご家庭もあります。その辺も人によって、学校によってさまざまです。では、次の質問に行きます。

「イスラーム学校のメリットとデメリットを聞いている限り、日中は日本の一般的な学校へ通い、塾などの習い事としてアフタースクールの位置付けにイスラーム学校があればいいのかなと思いました。イスラーム学校がアイデンティティを育む上で、アフタースクールではなく全日制であることの、意義はあると思いますか。」

まさに柚村さんのお子さんはこの状態でやってらっしゃいますよね。その上でのご苦労をさっきもお話されていましたが。

柚村

そうですね、やっぱり時間がきつきつになります。アフタースクールに通わせている家庭は、特に毎日のように通わせている家庭では、そういう問題があります。スクールバスとかがあればすごく便利だけど、毎日平日の夜に1時間ぐらい移動に使っている人たちもいます。これだと、宿題とか急いでやっても、家庭でゆっくりする時間、リラックスする時間が少なくなってしまうます。

サラ

当事者としてアンマールさんは、学校の後、毎日モスクに行っていましたね。アフタースクールだったと思いますが、ご自身は嫌だったとか、全日制のイスラーム学校の方が良かったな、楽だったなというのはありますか。

アンマール

僕は、アフタースクールの方が良かったと思っています。というのも、日本の学校に通いつつ、かつ、アフタースクールというよりは、そこでムスリムのコミュニティがあったことが良かったなと思っています。同世代のムスリムがいて、自分と同じ境遇の人が他にもいるんだという仲間意識というか、僕だけじゃないみたいな。断食してるのは僕だけじゃないとか、礼拝を自分がやってるのは、僕の他にも同じ友達がいるんだというので、なんか、力強く生きられたというのはあると思います。必ずしも塾とかアフタースクールがなかったとしても、週に1回でもいいから、そういう同じ世代の若い子たちが集まれるような機会を各コミュニティが、各モスクが、設けるべきだと思っています。

リーム

ちょっと補足してもいいですか。私、まだそこまで紹介してなかったのかもしれないですけど、実は日本におけるイスラーム教育について昔から興味を持っていました。2011年から2012年頃、修士課程で学んでいた時、日本におけるムスリムたちが葛藤する諸問題についての一部は教育であるというのは研究をしていました。当時、日本でイスラーム系のインターナショナルスクールという概念はありませんでした。友愛インターナショナルイスラミックスクールの名前もまだ決まっていなかった時代で、2011年には在日ムスリムたちが募金を集めて、東京ジャーミイ近くの土地で学校を作ろうという試みが始まり、私は修士論文を書いたんです。当時は、大塚のイスラーム学校なども、まだなくて、各モスクが管理するマドラサ形式で、本当に小規模に子供たちを集めてイスラームを教えていたわけです。だからアフタースクールという大きな概念ではなく、そういう試みだけだったし、ほとんどのムスリム、全国のムスリム

私たちはこういう風に恵まれていたわけではありません。だから、その意味では学校を作る必要性がありました。

そこから11年経って、今は少なくとも6校のインターナショナルスクールがあって、もうアルハムドゥリッラー⁶という気持ちになっていますが、まだデメリットもあります。私たちはたくさんのデメリットを挙げたかもしれませんが、ムスリムたちのアイデンティティ形成をするには、イスラーム学校は良い支えになっている部分もあると思います。アフタースクールを作るだけでは、私は足りないと思います。今、柚村さんも話したようにハードルが高い。普通に小学校に行くだけで非常に忙しい。ただでさえ忙しいのに、さらにアフタースクールに行くのはどうなんだろう。忙しすぎますから、結構きつくなりますよね。

サラ

でも当事者はそんなこと思ってないかもしれない。

アンマール

家がモスクから近かったので、親の労力は必要なかった。自分の自転車で行ける距離だったので、それは問題なかった。

サラ

お母さんが1時間かけて送り迎えをするっていうのはまた違いますね。

アンマール

はい。それともう1つ。僕と同じようにアフタースクールに通っていた人の中でも、ほとんどの人がイスラーム離れして、中にはイスラーム嫌い、普通の非ムスリムの人よりもイスラーム嫌いになってしまった人もいました。だからそこで、じゃあ何が重要かなと考えた時に、やっぱり親と、家族、家庭内での教育が1番大事になってくるのかなと思っています。環境をいくら整えてあげたとしても無理なことはあります。例えば、僕の姉の友達で、性格はすごくいいし、礼拝もきちんとするけれど、ヒジャーブをしない人がいます。その人のお母さんがそれをすごく懸念されていて、この子は全部やってるんだけど、ヒジャーブだけしないのが心配なのよって言っています。でも、このお母さんが、ヒジャーブをしてないんですよ。だから、やっぱり最初に親が子どものロールモデルとなってあげるのが一番重要なんじゃないかなと思います。コミュニティとか周りの環境を整えてあげるのも、もちろん重要だと思います

⁶ アッラーへの感謝を表す言葉。日本語訳は「アッラーに讃えあれ」。飲食の後や眠りから覚めた時など、日常的に使われる。

けど、家庭内の環境が1番です。

サラ

グフロンさんどうぞ。

グフロン

結局子どもって、学校での世界が全てだと思います。大人は、会社があるとか、別の趣味があるとか、色々な世界が見えると思うんですが、子どもって多分学校の世界が全てで、学校でのカーストが全てで。学校で先生から何言われるかとか、学校の友達がどうかとか、学校で過ごす時間の中で生まれた価値観が子どもを作っていくと思います。そう考えると、アフタースクールに、そしてイスラームのコミュニティに通わせるとしても、大体生活の全て、ほとんどの時間を過ごす仲間とか環境っていうのが学校である時、その子どもの世界って学校で出来上がってくると思うんですね。なので、どういう価値を子どもに育てほしいのか、知ってほしいのかというのを元に考えて、全日制に行かせるのか、アフタースクールにするのか考えられていければいいのかなと思います。

あとは、アフタースクールとかに行かせるとしても、学校がすごく楽しいところで、もしイスラームのコミュニティが勉強ばかりでつまらなかったら、もうそれは多分、マイナスのイスラームしか学ばない。逆に、学校がすごく嫌なところだとしたら、ほぼ1日の全てを学校で過ごしたとしても、愛情溢れるアフタースクールのその時間は1時間2時間だとしても、もしそこがすごく楽しいところだったら、多分そこで愛が育まれる。だから結局、愛のある環境がどっちになるのかということを見た上で決めるのが大事なのかなとは思っています。

サラ

だから、必ずしもイスラーム学校ではなくても、コミュニティがそれを支えることもできるし、家庭がそれをちゃんと引っ張っていくこともできる。だから、学校に任せるのではなくて、まず親頑張りましょう、そしてコミュニティもしっかりやりましょうっていうところですよ、きっと。学校が全てということではないということだと思います。

次で最後の質問になります。

「日本の社会の空気感もわかって、学力もつき、設備もある完璧なイスラーム学校があったら通わせますか。」

林さん、どうぞ。

林

そうですね、通わせると思います。

サラ

そこが問題ですもんね。先ほどあがったデメリットがなければ、イスラーム学校を否定する理由はないと。あとは月謝かな（笑）。

林

そうですね。実際アメリカでは割とそういう感じの学校がいくつかあって、もしアメリカに住むんだったら行かせてもいいかなと思っています。

サラ

その理想は日本に輸入できるんですかね。

林

そうですね。

サラ

第二世代、見に行ってください。

グフロン

経費をください。

サラ

慶應に頼んでください。

グフロン

後で野中先生と話します。

サラ

他の方もどうでしょう。もしそういう学校があるようでしたら、お子さん方を転校させますか？

柚村

拒む理由はなくて、通わせたいけど、やっぱり日本の非ムスリムの方に、イスラームを紹介したいという使命感が、私の主人にはあるんです。だから、その意味で、チ

チャレンジとして、あえて日本の一般の学校に通わせるという選択肢はあるかもしれないと思います。もし完璧なイスラーム学校があったとしても、誰かがやらないといけないこと。

サラ

自分の子どもを隔離して良いムスリムにするか、日本で揉まれてでも日本社会にちゃんと馴染んでダアワができるような子を育てるかということでしょうか。

柚村

馴染むというより、日本の社会にイスラームのこと知ってもらうように取り組む人たちが一定数必要だと思っています。

サラ

第二世代が日本の学校に行っていたことで、彼らのクラスメイトたちはムスリムって怖くないじゃんっていうことがわかっているはずです。「ハラールってなんだろう?」「あの子たち、給食ちょっと違って、こういう食べ物の禁忌があるんだな」っていうことをクラスメイトはわかっていたはずなので。

グフロン

もし日本の価値観が理解できているのであれば、大人になってから、ダアワやイスラームを知ってもらう活動をしてもらうのもいいんじゃないですか。

柚村

それもそうですが、やっぱり子どもの時に一緒に過ごすっていう仲間感と、大人になってから友達になる人の雰囲気って、なんか違いますか。本当に子どもの時から、中高とかの世代から仲が良い人の雰囲気って、ちょっと違うところもありますよね。壁がないっていうか、ほんとに。でも、完璧なイスラーム学校があれば通わせたいですよ。通わせたいけど、でも、やっぱり完璧な学校があったとしても、日本の学校に子どもを送るという必要性も、コミュニティとしては一定数あるだろうなということですよ。

林

ちょっといいですか、それについて。コミュニティとしての必要性みたいな、誰かがやらなければ、いつまで経ってもムスリムは日本の中で認知度が高まらないというのはすごくあると思うんですが、同時に、やはりそれを子どもにやらせるべきなのかというのはあると思うんです。もちろん、子どもの頃からやっている人がいた方が、

日本の社会全体にとってはいいと思うんですが、それを誰がやるのか。あとはその子どもの個性によっても、それがいける子と、いきにくい子っているわけじゃないですか。そういうのが全然気にならなくて、楽しくてやっていけるんだっていう子がいれば、ぜひ頑張って公立でやってほしいなと思いますけど、そこを大人の都合で「あなた頑張ってきて」みたいことで、辛い思いをしちゃうというのは、ちょっと可哀そうかなと思います。

サラ

戸田さんはどうしますか。こういう学校がもし近くにできたら、お子さんを転校させますか。

戸田

転校はさせないですかね。先ほどのグフロンさんの話とも関係しますが、子どもにとって学校って全てになってしまうと思うんです。だからこそ、その時に色々な社会とか、色々な人がいるというのを知っておいてほしいとか。大人になってから知ればいいじゃないかっていう意見もあるとは思いますが、ただ、なんとなく私個人としては、幼い時に知ることも大事だと。真面目な人、楽しい人、静かな人、強い人、弱い人などなど、いろいろな人がいることを知ってほしいですね。

これは全然、ムスリムかどうかとか関わりなく、なるべく多様なとか、色々な人に接して、知ってほしいという気持ちはあるので、イスラーム学校に通わせるというよりは、公立学校に入れつつ、そういったコミュニティがあれば、1週間に1回とか、定期的に通わせるので十分だと思います。さらに言えば、学校の形式というよりも、愛がある場所、子どもが安心、リラックスできる場所がまず必要で、そのうえで色々な世界を見ることもできる。そういう環境を整えてあげることができればいいなという気持ちです。

サラ

ありがとうございます。

では、時間になりましたので、本日はここまでといたします。ご登壇の皆さま、有意義なご報告、ご発言ありがとうございました。また、対面参加及びオンライン参加の皆さま、貴重なご質問をお寄せいただきありがとうございました。全てを反映することできませんでしたが、いただいた質問は登壇者及び運営側で全て共有し、今後の課題とさせていただきます。またそれが次回のムスリムミーティングの企画になることもありますし、今日の議論も報告書としてあがりますので、また再度読んでいただくことも、他の方に知らせていただくこともできると思います。とりあえず一旦今日は終わりにして、また少し時間を置いてから味わっていただこうと思います。

それでは最後に、この会議の主催代表である野中葉先生より総括のコメントをいただきたく思います。先生、お願いします。

野中

登壇者の皆さま、長い時間、有意義な議論を重ねていただき、どうもありがとうございました。また、会場と、さらにはオンラインで聞いていただいている皆さま、長い時間辛抱強く聞いていただき、どうもありがとうございました。

色々な情報や意見があり、短い時間でまとめるのは大変難しくて、本当は質問をさばく係も担当する予定でしたが、学生とサラさんにお任せして、どういうことを総括として話そうかを考えていましたが、全くまとまってはいません。皆さまのお話を聞きながら考えたことなどを列記していきたいと思います。

私は元々インドネシアの研究をやっています。私が専門に研究しているインドネシアを含め、日本以外のムスリムが多く暮らす地域のことを考えると、そういった地域ではおそらく、子どもへのイスラーム教育や信仰の継承の場は家庭だけではないわけです。地域のコミュニティの中で広く行われているのが一般的で、さらには公的な学校教育の中でもイスラームを教えている地域がたくさんあるように思います。

それから、他の宗教の事例を見てみると、一部の新宗教と言われるような宗教などでは、教団組織が信者二世、三世に対する信仰継承に積極的に関わるケースもあると聞いています。けれどもイスラームには、元々そうした教団組織や、一部の伝道宗教に見られるような聖職者集団みたいなものはありません。さらにはイスラームがマイノリティである日本では、地域のムスリムコミュニティで子どもを支えるというような事例がまだまだ限られている状況で、イスラーム教育または信仰継承の大部分が、各家庭によって担われているという現状があるということを再確認しました。

こうした状況の中、会の冒頭で明留くんからの発表もあったように、日本に暮らすムスリムの子どもたちの多くがイスラームから離れているのではないかと、離れてしまったのではないかとという危機感を持つ、特に第一世代の方たちが増えていき、家庭以外の場所でのイスラーム教育を求める声が高まって、イスラーム学校が設立されている状況だということを理解しました。

一方で、現在の日本のイスラーム学校は、その創設を急いだ結果、教育や教師の質、また、施設や設備の整備が追いついていないという問題があることが皆さんの議論から明らかになったのではないかと思います。

さらには、イスラーム学校に通わせることで、日本社会で多くの非ムスリムと関わって生きていく力を身につける機会を失うことを危惧している方たちがいるということもわかりました。

現行の日本のイスラーム学校に対する懸念として、「外国人がやるダアワみたいになる可能性がある」という声は大変に刺激的でした。つまりそれは、特定の地域で実

践されているローカルな「イスラーム」を、イスラームそれ自体だとして教えられてしまうことへの危惧だったかと思います。また、それによって、イスラームとは生き方としてあるべきにも関わらず、中身の無いムスリムとしてのアイデンティティだけが身につけてしまう。そうした可能性があるという懸念の声も、とても考えさせられるお話でした。

イスラーム学校に対して、このミーティングの議論として何か言えることがあるとすれば、ぜひ、より良いムスリムを育てるという目標の中に、日本で生きていくことへの力を身につけていくことも含んでもらいたいということ。また、イスラーム学校の先生方には、非ムスリムの人たちも尊重できる教育を行ってほしいということ。こうしたことを提言したいです。

また、現在進行形の具体的な話として、日本で育った第二世代が新しいイスラーム学校の設立または運営に関わっているという動きがあることは、とても頼もしいと感じました。日本の学校の良いところや、日本の価値観を身につけた第二世代の人たちがイスラーム学校に関わっていくことで、より良いと言うんでしょうか、新しい形のイスラーム学校が担われていくのではないかなと感じました。

もう1つ、別の側面で言えば、非ムスリムがマジョリティを占める日本社会の側への問題提起も大変意義深かったと思います。

私自身、大学で学生たちへの教育に携わっている非ムスリムであるわけですが、日本の学校というのはそもそも出る杭が打たれる場所だという言葉は、大変ショッキングでした。同時に、日本の学校は日本人が通う学校だという言葉も、改めて大きな問題を突きつけられた気がしています。さらには、出る杭が打たれる環境ということと関連して、部活至上主義というような雰囲気についても、考えていかなければならない問題だと強く感じました。

今日はムスリムにフォーカスを当てたミーティングではありましたが、ムスリムに限らず、多様な人たちが暮らすようになった日本社会で、現行の学校体制それ自体についても議論を重ねていく、さらには変えていく必要があるのではないかという風を感じています。こう考えていくと、今日のミーティングは、イスラーム学校について議論したわけですが、イスラーム学校を考えることで、日本の一条校、学校の体制についても考える視点が浮かび上がってきたと感じています。

さらに、日本社会全体の問題として捉えた時には、イスラーム学校で学びたい人もいれば、日本の一条校で学びたいムスリムもたくさんいるということ、全ての人たちが理解すべきですし、またムスリム自身が選択できるような形を整える必要があると思いました。

一方、1つの側面で言えば、イスラーム学校を少なくとも他のインターナショナルスクールと同レベルの各種学校、さらに言えば、議論の中でもありましたが、日本の普通の学校と同様の一条校を目指す、そういった環境を整えることが必要であって、

また別の側面で言えば、地域の中の学校、いわゆる一条校で学ぶことを望むムスリム児童や生徒たちをきちんと受け入れられるような場作りも必要だと考えています。

また、質疑応答の際に出たことではありますが、日本語を教授言語とするイスラーム学校の設立を目指すとか、非ムスリムも入学したいと思えるようなイスラーム学校にするにはどうするか、といったような、次の時代、今後の可能性についても提案があったことは、大変興味深かったと思います。

今回のミーティングは、イスラーム学校に対して賛成か反対かなど、何かに白黒つけようということは目的にはしていません。イスラーム学校が各地に設立していく現状に対して、一度立ち止まってみんなで議論する場を持ちたいということで設定したミーティングであります。多くの方たちと一緒に、また継続して議論していく場を持つように考えていきたいと考えています。本日はどうもありがとうございました。

サラ

野中先生、ありがとうございました。以上をもちまして第7回全国ムスリムミーティングを終わります。終了後のアンケートを参加者の皆さまにお願いしています。会場参加の方は、スクリーンに映し出されているQRコードから、オンラインで参加されている方はチャットボックスの方にリンクがあります。ぜひフォームにアクセスして、ご回答にご協力お願いいたします。本日は皆さま、長時間にわたりご参加いただきどうもありがとうございました。

(終了)

5. 参加者による感想（事後アンケートより一部抜粋）

ミーティング終了後に行ったアンケートにて、参加者から寄せられた感想を一部紹介する。

<p>登壇者による意見交換では、イスラーム学校のメリットだけでなくデメリットや日本の学校との比較を聞くことができたのがとても良かったです。登壇者の方々の実際の経験も交えたお話はとても貴重でした。</p>
<p>やはりお互いに話をする事、聞くことは大切だなと思いました。勝手に想像するのはよくないと。具体的にはイスラームについて、どのような学びを行っているのか、機会があれば知りたく思いました。ありがとうございました。</p>
<p>イスラーム学校の現状（メリット・デメリット）、アフタースクールや日本の公立学校に通うムスリムの子どもの様子を知る事ができてよかった。地元の公立学校で唯一人のムスリムという環境に自分の息子（高1）がいるので、登壇者の方々のお話に共感や色々な気づきがあり、とても有意義な内容だった。</p>
<p>ムスリムを育てる親になった身として、非常に勉強になる会議でした。私は日本人であり、日本の教育を受けましたので、イスラーム学校へ入れなければいけないという焦りでしたが、結局は親の姿を子供は見ている事から、まずは、イスラームの家庭を築かなければいけない事に気がつきました。ゆくゆくは学校に通わせる家庭がとしては、日本のよさとイスラームを融合させた教育が得られる機関の必要性を感じました。また、なぜイスラーム学校が誕生したのかについて触れた事で、イスラームを学ぶ機会はそれぞれの家庭で決められる事だなと考えました。</p>
<p>イスラーム学校に子供を通わせている方を身近にしらないので、全てが興味深かったです！イスラーム学校に対して良いイメージしかなかったので、教員の質・宗教観の偏り等懸念があることを知ることができたことが特に良かったなと思います。</p>
<p>日本の教員免許を持っている先生が少ないという点にとっても興味を持ち、今後、どのように育成すべきかを考えるきっかけになりました。また、非ムスリムである日本人のイスラーム教に対する意識が、イスラーム学校とムスリム児童にいい影響を与えられると実感しました。</p>
<p>イスラーム学校と一条校の比較が興味深かったです。また、イスラーム学校のメリットをある程度は感じつつも、まだまだ課題があることが議論されていたのが印象に残りました。第二世代への期待の高さも非常に頼もしいと感じました。</p>



ミーティング終了後、登壇者・運営と記念撮影

第7回全国ムスリムミーティング「イスラーム学校を語る ー親と子の視点からー」報告書

2025年3月30日初版

監修： 野中 葉
制作： 慶應義塾大学野中葉研究会 ムスリム共生プロジェクト
制作協力： 第7回全国ムスリムミーティング登壇者
発行： 慶應義塾大学野中葉研究会 ムスリム共生プロジェクト
E-mail: nonakalabproject@gmail.com

本書の内容の一切の無断転載を禁じます。

